

甦る! 名勝 小金井桜

桜のまちづくりサミット

—吉野・桜川・北上・小金井—



主 催：名勝 小金井桜大復活祭実行委員会

参 画 団 体

小金井市、小金井市教育委員会、名勝 小金井桜の会、小金井公園桜守の会、小金井市商工会、
小金井市観光協会、小金井青年会議所、東京・小金井ロータリークラブ、東京・小金井さくら
ロータリークラブ、国際ソロプチミスト東京小金井、東京小金井ライオンズクラブ
小平玉川上水を守る会、

後援・協力団体

小平市、JR 武蔵小金井駅、吉野山保勝会、桜川日本花の会、北上さくらの会、
(財団法人)日本桜の会、(公益財団法人)日本花の会

2011年 2 月 12 日

優雅で可憐な名勝小金井桜



若葉の色・花の色、形、大きさ、開花時期がそれぞれ違う天然品種



玉川上水堤のヤマザクラ並木が名勝指定の小金井(サクラ)



小金井桜の復活を目指して

目 次

大復活祭の開催に当たって	1
大復活祭イベント概要	3
1月15日号市報【こがねい】	5
2011年1月22日【朝日新聞記事】	6
小金井桜の復活【さくら基金のお願い】	7
小金井桜関係略年表	9
国指定文化財データベース	12
『吉野山千年桜の歴史と現状』吉野山保勝会事務局長 山本 茂之	13
「吉野の桜」支援のお願い	15
2010年4月14号「読売新聞記事」	16
「桜を守り、育てる」吉野山保勝会理事長 藤井泰育	17
「吉野の桜と日本人の心」金峯山修験本宗 宗務総長 田中利典	18
吉野山サクラ調査チーム	19
吉野の桜を守る	20
『桜川の桜の里づくり』桜川日本花の会代表 磯部 亮	21
名勝 桜川のサクラ	22
国指定 名勝 桜川	23
岩瀬小学校からの桜苗の贈呈	24
2011年1月25日【桜の苗贈呈式新聞記事】	25
「桜川のサクラ解説資料」	26
「桜川市のサクラ」紹介	27
『桜慈しむ「展勝地」』北上さくらの会会長 伊藤 彬	28
展勝地・陣ヶ丘の桜たち	30
北上さくらんぼ種拾いの新聞記事	31
2007年11月小金井桜里帰り東京新聞記事	32
2007年11月小金井桜里帰り朝日新聞記事	33
北上さくらの会会報27号記事	34
『名勝 小金井桜復活までの歩み』名勝 小金井桜の会会長 石田 精一	36
玉川上水・小金井桜整備活用計画(小金井市)	38
名勝小金井(サクラ)再生・復活計画	39
名勝小金井(サクラ)のモデル区間の整備について(東京都水道局)	40
名勝小金井(サクラ)のモデル区間の整備について(小金井市)	41
ボーイスカウト小平第五団「さくらんぼ種拾いの活動」	43
名勝 小金井桜リーフレット	45
多摩史再訪「小金井桜」米谷開司朗氏新聞記事	47
1998年2月「武蔵野残照」読売新聞記事	48
1999年3月「名勝小金井桜」東京新聞記事	49
2010年11月「小金井桜」読売新聞記事	50
定期パトロール「モデル地区現況報告」	51
2010年「第9次樹勢調査同行記」東京樹木医プロジェクト 椎名 豊勝	52
小金井橋架替整備の経過と状況(東京都北多摩南部建設事務所)	54
小金井音頭 歌手 大樹 映美	

「平成の世に甦る！名勝 小金井桜」 大復活祭の開催に当たって

1.郷土の誇り！小金井桜が甦る

江戸時代から昭和30年代まで私たちの先輩が郷土の誇りとして守り育て、関東随一の桜の名所として全国に誇った「名勝 小金井桜」の再生事業が、今年度から10年間かけて東京都、地元自治体（小金井市・小平市等）と市民団体との協働事業としてスタートしました。

この「小金井桜再生事業」は、日本を代表する奈良県吉野山と茨城県桜川の間ヤマザクラの名品種や岩手県北上市に嫁いだ小金井桜の苗木を取り寄せ、補植することにより私たちの先輩が守り育てた玉川上水堤に名勝としてふさわしいヤマザクラ並木の景観を甦らせる全国的に見てもオンリーワンの一大事業といえます。

初年度の今年度は、新小金井橋と関野橋の間の一部をモデル地区として、実験的に雑木の剪定・伐採を行い、茨城県桜川から取り寄せてある苗木を中心に補植を行い、小金井桜や他の植生への影響や景観を確認する中で、順次名勝指定されたヤマザクラ並木区間（小平小川水衛所跡から武蔵野市境橋）約6キロの両岸に約1200本の植栽を行いつつ小金井桜の再生を図ることになります。

2.悲慘な小金井桜の現状

江戸・東京の人々の命の水として世界に誇る「玉川上水」と共に親しまれてきた「名勝 小金井桜」は、昭和40年代小金井桜のある玉川上水下流部分の通水が停止され、空堀状態が約20年間続いたことにより、高木の雑木が水路の内側から我物顔で繁茂し、一年中日陰の状態です。「名勝 小金井桜」の面影は失われてしまいました。

その後、玉川上水に清流復活と称する下水処理水の通水が始まり、空堀状態は解消されましたが有機リン等の栄養豊富な処理水は、樺などの雑木・雑草の成長を早め被圧等の影響で桜にとっては悲慘な状況を呈し、現在に至っています。

3.学習講座から再生へ

平成8年小金井市公民館緑分館主催による市民講座「名勝 小金井桜」が開催され、平成12年には高齢者を対象とした「生き生き活動講座」に小金井桜がテーマとして取り上げられ、それぞれの受講修了後の有志による、名勝小金井桜の会（会長：大久保慎七、会員57名）が結成され再生に向けての学習活動が始まりました。

また、岩手県北上市の「北上さくらの会」とは、大正12年に展勝地公園開設に際して、小金井の山桜1200本が植えられ、そのうち80本近くが現在も元気に咲き誇っているということを聞き及び、交流が始まりました。展勝地公園80周年記念事業の一環として、北上さくらの会からヤマザクラ「小金井」を母樹として育成された山桜の苗木5本が贈呈され、平成19年11月4日、86年ぶりの里帰りが実現しました。

4.再生・復活へのスタート

東京都は、江戸・東京の命の水を支えてきた玉川上水が平成15年8月に国の史跡指定を受けたことに伴い、史跡玉川上水並びに名勝小金井(サクラ)の保存・保護を図るため「玉川上水整備活用計画」を発表し、小金井桜のヤマザクラ並木を再生するために、平成22年度から10年間の緊急的、優先すべき施策として東京都が地元自治体と市民団体との官民一体の協働事業として実施することを決定し、既に小金井公園歩道橋から関野橋の間150メートルをモデル地区として雑木等を伐採して小金井桜の復活事業がスタートしました。

5.官民一体の協働事業へ

私たちは、日本を代表する奈良県吉野山と茨城県桜川の由緒正しい伝統を引き継ぎ、国の名勝でもある玉川上水堤の「名勝小金井(サクラ)」を次の世代に適切に継承し、全国に誇るオンリーワンのまちづくり事業として吉野山保勝会、桜川日本花の会、北上桜の会の皆様のご協力を得て進めていきたいと願っております。



雑木を伐採し整備されたモデル地区



2010年の実生から発芽した未来の主役たち

平成の世に甦る! 名勝 小金井桜大復活祭

2月11・12・13日に開催

主 催・名勝 小金井桜大復活祭実行委員会（実行委員長・稲葉孝彦小金井市長）

イベント

育て！未来の小金井桜

2月5日午前10時から

場所・杉山造園苗畑

見事に咲いた去年の小金井桜のサクランボをボーイスカウト小平5団、ガールスカウト小金井109団の子ども達と岩手県北上展勝地の「小金井」の山桜のサクランボを北上の小学生が採取してくれました。

小金井桜復活の主役として成長されることを願って採取に参加された子ども達と共に植え付け作業を杉山造園で行います。

5月には可愛らしい芽を出し、復活のシンボルとして大事に育てていくことになります。

日本を代表する奈良県吉野と茨城県桜川の由緒正しい伝統を引き継ぎ国の名勝でもある玉川上水堤の「名勝小金井（サクラ）」の復活事業が今年から10年かけて東京都・地元自治体・市民団体の協働事業としてスタートします。世界に誇る江戸・東京の命の水を支えた国の史跡「玉川上水」と国の名勝である「名勝小金井（サクラ）」を次の世代に適切に継承し全国に誇るオンリーワンのまちづくり事業を吉野山保勝会、桜川日本花の会、北上さくらの会の皆さんをお招きし復活のスタートを記念してイベントを開催します。

「小金井桜復活植樹祭」11日（金）午後2時から 場所・玉川上水モデル地区

玉川上水小金井公園歩道橋から関野橋の間150mのモデル区間に実生から育てた桜川の桜と小金井桜の古木及び嘉永年間に市内某所に植栽された古木から接ぎ木した桜の後継樹26本を玉川上水堤フェンス内に植栽します。

「小金井橋完成植樹祭」11日（金）午後3時から 場所・小金井橋

「名勝小金井（サクラ）」基点である第五代目小金井橋が完成しました。それを記念して橋の4隅に、奈良県吉野と茨城県桜川・岩手県北上及び小金井桜の後継樹を植栽します。

「桜のまちづくりサミット」12日（土）午後1時30分から4時 場所・萌え木ホール

小金井桜の本家に当たる奈良県吉野山保勝会・茨城県桜川日本花の会・分家の岩手県北上さくらの会の代表者をお招きし、「桜のまちづくり」についてのパネルディスカッションを行います。

ユネスコ世界文化遺産として登録された吉野山の桜は、近年ナラタケ等の発生により立ち枯れ被害が目立つようになったということです。また、桜川市の「サクラサクリプロジェクト」のまちおこしプログラム、東北三大桜として多くの観光客を集めている北上展勝地の桜の活動等をご披露いただける貴重な機会です。

「桜のまちづくりサミット」—吉野・桜川・北上・小金井—

吉野山千年桜の歴史と現状	吉野山保勝会	山本 茂之事務局長
「桜川の桜の里づくり」	桜川日本花の会	磯部 亮代表
桜慈しむ「展勝地」	北上さくらの会	伊藤 彬会長
名勝 小金井桜復活までの歩み	名勝 小金井桜の会	石田 精一会長

「桜のふる里物産展」12日（土）・13日（日）場所・フェスティバルコート

奈良県吉野町・奈良県まほろば館・岩手県北上市、小金井市の商工会、観光協会のご協力を得て特産の物産販売をいたします。12日は小金井出身歌手大樹映美の「小金井音頭」歌謡ショー、13日は小金井の「貫井ばやし」北上の「鬼剣舞」の民俗芸能をお楽しみいただきます。

また、12・13両日、奈良県の「せんとかん」、北上市の「おに丸くん」、小平市の「ぶるべー」、小金井市の「こきんちゃん」が特別出演します。

桜のふる里の物産と民俗芸能、各市のキャラクターショーをお楽しみいただきます。

「名勝 小金井桜今昔写真展」11日（金）から25日（金）場所・武蔵小金井駅構内

名勝小金井桜の会が主催して、平成11年から毎年実施している「小金井桜写真展」の入賞作品をはじめ、昔の小金井桜の写真、吉野・桜川・北上の観光写真を展示し一足早いお花見を楽しんでいただきます。

小金井桜復活植樹祭

植樹桜 ヤマザクラ 5種・26本(左岸 15本、右岸 11本)

桜川・ヤマザクラ 5本(実生)

平成12年4月に「名勝小金井桜に親しむ会」が桜川ヤマザクラ視察会を開催した時に、桜川磯部稲村神社磯部宮司から寄贈された実生から発芽した1年物の苗を、会員が里親として育てたものを、小金井公園桜守の会が管理育成したヤマザクラです。

小金井公園・ヤマザクラ 7本(接ぎ木)

昭和25年桜堤管理者・塩屋格氏が三好學博士命名の9品種10本を接ぎ木したと思われるヤマザクラらしき古木の穂木から、平成13年に接ぎ木して小金井公園桜守の会が管理育成したヤマザクラです。

嘉永・ヤマザクラ 7本(接ぎ木)

市内前原町O家の祖先が「小金井新田の名主が、嘉永3年(1850年)に田無村名主下田半兵衛らと共に補植した苗木を自宅に持ちかえった」といわれる原木から、平成15年に接ぎ木したヤマザクラです。

三吉野・ヤマザクラ 8本(接ぎ木)

名勝天然記念物の調査や保護思想の啓蒙普及活動に尽力した植物学者三好學博士が『小金井桜花図説』(58種)で白山桜の典型として「三吉野桜」と命名されたと思われるNo.659の原木から平成16年に接ぎ木したヤマザクラです。

玉川・ヤマザクラ 2本(実生)

元小金井桜に親しむ会会員が、玉川上水堤の新小金井橋左岸)と曙橋右岸で採取した実生苗を自宅で育て、平成15年に小金井公園桜守の会が管理育成したヤマザクラです。

小金井橋完成植樹祭

植樹 ヤマザクラ 4種・4本

吉野山 ヤマザクラ 奈良県吉野郡吉野町【吉野山保勝会寄贈】

このヤマザクラは、小金井桜のルーツ奈良県吉野山の「吉野山保勝会」から小金井橋完成の祝いと小金井桜復活の祈りを込めて贈られました。6世紀初め吉野山の金峯山寺に役行者が桜の木で蔵王権現を刻んで本尊としたという伝説から、信者によるヤマザクラの寄進と献木が長年続けられ、現在数万本の桜の名所としてあまりにも有名です。吉野神宮付近を下の千本、如意輪寺付近を中の千本、吉野分水神社付近を上の中千本、西行庵付近を奥の千本という。

大正13年12月9日に国の名勝に指定されました。

桜川・ヤマザクラ 茨城県桜川市【桜川磯部稲村神社寄贈】

このヤマザクラは、小金井桜のルーツ茨城県桜川の桜川磯部稲村神社から小金井橋の完成の祝いと小金井桜復活の祈りを込めて贈られました。桜川は世阿弥の謡曲「桜川」に『花の名所桜川、親子ならでは来ぬものを』と謡われ、紀貫之も歌に詠み古くから桜の名所として有名です。現在は河川改修のため大正13年に名勝に指定された河畔の桜はなく、磯部稲村神社周辺と磯部桜川公園に約千本の山桜が植えられています。昭和49年国の天然記念物に指定され「サクラサクリ」として有名です。

北上・ヤマザクラ 岩手県北上市 【北上さくらの会寄贈】

このヤマザクラは、大正10年開設の北上展勝地公園陣ヶ丘に、当時サクラ研究の第一人者であった三好學博士と井下清東京市技師の指導で、日本のヤマザクラの代表として小金井桜1200本が移植され今も約80本が元気に咲いています。平成13年に展勝地公園開園80周年式典の席上、小金井市への「里帰り目録」が伊藤北上市長から贈られ、平成19年11月に86年ぶりの里帰りが実現しました。両市民の友情の印として再び里帰りして、小金井橋完成を祝う親・子・孫3代のメモリアルイヤーが実現しました。

小金井・三吉野ヤマザクラ 小金井市【小金井公園桜守の会寄贈】

この三吉野ヤマザクラは、名勝天然記念物の調査や保護思想の啓蒙普及活動に尽力した植物学者三好學博士が『小金井桜花図説』(58種)で発表した白山桜の典型で「三吉野桜」と命名されたと思われるNo.659の原木から平成16年に接ぎ木した後継樹です。中咲きで樹形は傘状をなし、純白の美しい花を毎年咲かせて市民に愛されています。可憐で優美なヤマザクラの代表です。

甦る! 名勝 小金井桜 大復活祭

小金井桜復活植樹祭

2月11日 14時～14時30分

玉川上水関野橋付近

小金井橋完成植樹祭

2月11日 15時～15時30分

小金井橋付近

桜のまちづくりサミット

—吉野・桜川・北上・小金井—

2月12日 13時30分～16時

萌え木ホール

桜のふる里物産展

—お先にお花見気分—

2月12日～2月13日

10時～17時

フェスティバルコート

名勝小金井桜

今昔写真展

—心のふる里『山桜』—

2月11日～2月25日

JR武蔵小金井駅構内

主 催：名勝 小金井桜大復活祭実行委員会

参 画 団 体

小金井市、小金井市教育委員会、名勝 小金井桜の会、小金井公園桜守の会、小金井市商工会、小金井市観光協会、小金井青年会議所、東京・小金井ロータリークラブ、東京・小金井さくらロータリークラブ、東京小金井ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト東京-小金井、小平玉川上水を守る会、

後援・協力団体

小平市、JR 武蔵小金井駅、吉野山保勝会、桜川日本花の会、北上さくらの会、(財団法人)日本桜の会、(公益財団法人)日本花の会

詳しくはイベント詳細をご覧ください！

甦る! 名勝 小金井桜 大復活祭

桜のふる里物産展

—お先にお花見気分—

奈良県吉野山・岩手県北上の物産

2月12日 大樹映美歌謡ショー

2月13日 北上鬼剣舞・貫井ばやし

10時から17時

フェスティバルコート

小金井桜復活植樹祭

2月11日 14時～

玉川上水関野橋付近

小金井橋完成植樹祭

2月11日 15時～

小金井橋付近

桜のまちづくりサミット

—吉野・桜川・北上・小金井—

2月12日 13時30分～16時

萌え木ホール

名勝小金井桜今昔写真展

—心のふる里「山桜」—

2月11日～2月25日

JR武蔵小金井駅構内

主 催：名勝 小金井桜大復活祭実行委員会

参 画 団 体

小金井市、小金井市教育委員会、名勝 小金井桜の会、小金井公園桜守の会、小金井市商工会、小金井市観光協会、小金井青年会議所、東京・小金井ロータリークラブ、東京・小金井さくらロータリークラブ、東京小金井ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト東京-小金井、小平玉川上水を守る会、

後援・協力団体

小平市、JR武蔵小金井駅、吉野山保勝会、桜川日本花の会、北上さくらの会、(財)日本桜の会、(公財)日本花の会

甦る! 名勝 小金井桜

桜のふる里物産展

—お先にお花見気分—

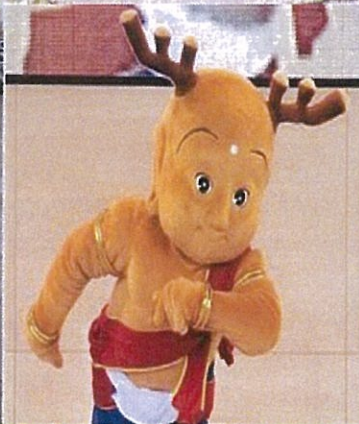
12日 大樹映美歌謡ショー

13日 北上鬼剣舞・貫井ばやし

両日とも **12時・15時**



小平ぶるべー



奈良せんとかん



北上おに丸くん



小金井こきんちゃん

12日・13日10時大集合

会場:フェスティバルコート

主催:名勝小金井桜大復活祭実行委員会(連絡先:小沼TEL090-6507-4310)



小平市 「ぶるべー」



奈良県 「せんとかん」



小金井 「小金ちゃん」



北上 「鬼丸くん」



渋谷 「くもっくん」



こきんちゃん



市報

こかねい

平成23(2011)年

1/15

NO.1235

市制施行50周年を記念し、本市の名誉市民である麻生タジヤン氏の宮崎駿氏に、制作していただいた市のイメージキャラクターです。



ホームページ <http://www.city.koganei.lg.jp/>

モバイル(携帯電話)版 <http://www.city.koganei.lg.jp/m/index.htm>

毎月1・15日発行

世帯と人口

23.1.1現在

世帯数 55,967(10増) 男 57,629(66増)

人口 115,589(58増) 女 57,960(8減)

※ 世帯数および人口は、住民基本台帳と外国人登録によるものです。()内は前月比

主な内容

◆お知らせ

緑の基本計画(案)に対するパブリックコメントを募集、市職員募集、市民防犯講習会を開催、見え始めました新しい小金井 ほか …2~9面

◆福祉のひろば

介護予防個別相談会、まなぶ・語る・つながる家族の会、介護に役立つ救急救命講座 ほか …5面

◆健康ガイド

市民公開講座・上手な医者のかかり方、離乳食教室、両親学級ひまわりクラス ほか …8面

◆催し

おはなし会講座、小金井アートフル・ジャック!!、市立はげの森美術館 ほか …10~12面

よみがえ
平成の世に甦る!

2月11日(祝)~13日(日)

名勝小金井桜大復活祭イベント



小金井桜の歴史の系譜である茨城県桜川産のヤマザクラおよび市内に現存する江戸時代に補植された桜から接ぎ木した後継樹を植栽します。

小金井桜復活植樹祭

「桜のまちづくりサミット」

小田原市(多数抽選)

申込 1月25日(消印有効)まで

住所・氏名・電話番号を明記し、生涯学習課「桜のまちづくりサミット係」(〒184-8504住所不要)へ。

定員 80人(多数抽選)

申込 1月25日(消印有効)まで

住所・氏名・電話番号を明記し、生涯学習課「桜のまちづくりサミット係」(〒184-8504住所不要)へ。

と き 2月12日(土)午後1時30分~4時

と き 2月12日(土)午後1時30分~4時

と き 2月12日(土)午後1時30分~4時

と き 2月12日(土)午後1時30分~4時

と き 2月12日(土)午後1時30分~4時

と き 2月12日(土)午後1時30分~4時

と き 2月12日(土)午後1時30分~4時

と き 2月12日(土)午後1時30分~4時

と き 2月12日(土)午後1時30分~4時

と き 2月12日(土)午後1時30分~4時

と き 2月12日(土)午後1時30分~4時

と き 2月12日(土)午後1時30分~4時

と き 2月12日(土)午後1時30分~4時



山本松谷「小金橋之図」(明治39年・風俗画報・小金井名所図会より)

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

と き 2月11日(祝)午後2時~3時30分

東京新聞 TOKYO Web

【東京】

「桜のまちづくり」考える 小金井でサミット

2011年2月13日

玉川上水沿いの桜並木の再生事業がスタートした小金井をはじめ、奈良・吉野、茨城・桜川、岩手・北上で活動する市民団体の代表者らによる「桜のまちづくりサミット」が十二日、小金井市内で開かれ、各地の現状や課題が話し合われた。（大鹿雅人）

都や小金井市などが十年計画の再生事業を始めたことを記念し、同市や市内外の団体が企画したイベント「名勝小金井桜大復活祭」の一環。前日の十一日には、小金井公園近くの約百五十メートルのモデル区間に、小金井桜の系譜である桜川産のヤマザクラや、市内の古木から接ぎ木した後継樹など二十六本を植樹した。

サミットでは、立ち枯れ被害などが深刻化している吉野山について、地元の保勝会の山本茂之事務局長が、原因の調査活動や募金などの支援について報告し「千三百年の歴史がある桜を、地域で守っていかなければならない」と強調した。

桜川日本花の会の磯部亮代表は「地元の若者が『サクラサクリ』として、合格祈願の町おこしを進めている」と紹介した。北上さくらの会会長の伊藤彬北上市長は「熱心なリーダーが活動を引っ張ったが、その経験やデータを共有化することが大切」と訴えた。

名勝小金井桜の会の石田精一会長は、再生事業について「会として育苗をこれからも続け、十年の事業が無事に進むように力を尽くしたい」と決意を表明した。四人が互いに意見を交わすパネル討論も行われた。

小金井桜の再生に協力するため、育苗や種子集めに協力した北上と桜川の小学校への感謝状贈呈も行われ、最後に参加者全員で「吉野山の桜を救おう」と訴える共同アピールを宣言した。



各地の団体の代表者が一堂に会したパネル討論＝小金井市で

PR情報

全国の逸品をお取り寄せ！47CLUB(よんななクラブ)

東京築地でキティちゃんが運転している乗り物は何！？【47CLUB】

よみがえれ小金井桜

吉宗の時代に植えられ、広重が錦絵に

徳川吉宗の時代に植えられ、歌川広重が錦絵に描いた小金井桜。衰えが目立ち、かつての面影がなくなった名勝をよみがえらせようという動きが小金井市内で本格化してきた。来月11日には後継樹などヤマザクラ26本の植樹祭があり、記念のイベントも開かれる。(山本奈香)

小金井桜は、江戸時代中期の元文2(1737)年、奈良・吉野などから取り寄せたヤマザクラを玉川上水の両側約6㍍にわたって植えたのが起源とされる。13代將軍家定や明治天皇が観桜したと伝えられ、1924年には国が名勝に指定した。

だが、戦中・戦後は管理が滞り、老木の枯死が進んだ。上水堤に歩行者用の柵が設置された68年からは花見もしづくなり、花見の拠点は多くのソメイヨシノが植えられた都立小金井公園に移っていった。小金井桜の継承を願って活動してきた「名勝小金井桜の



小金井桜が描かれた歌川広重の錦絵「富士三十六景武蔵小金井」(1859)

来月 玉川上水沿い 植樹祭



明治30年代、花見の頃の小金井橋(手彩色写真)＝いずれも小金井市提供

会」事務局長の小沼広和さん(62)は「小金井桜は小金井公園の桜だと思っている市民も多い」と嘆く。

近年はケヤキや雑木が生い茂り、日照不足や排ガスで桜が枯れ続けている。同会がヤマザクラを植えていく。

年7月に行った樹勢調査によると、93年以降の累積枯死樹数は188本、枯死率は約23%だったという。

小沼さんが期待するのが、玉川上水を管理する都水道局が中心となって進める「玉川上水・小金井桜整備活用計画」。今後10年かけて茜屋橋から梶野橋付近まで約3㍍区間の雑木などを伐採し、ヤマザクラを植えていく。

2010年度は、試験的に新小金井橋と関野橋の間の約150㍍を整備する。雑木伐採が昨年終わり、来月、いよいよ植樹が始まる。

植えられるのは、市内に残る江戸時代の桜から接ぎ木した後継樹と、玉川上水堤などの古木から接ぎ木した計21本。そして、同じ系譜とされ、茨城・桜川で実生から育てた苗木5本だ。

地元で接ぎ木をして後継樹を育てたのは「小金井公園桜守の会」。専門家ではないため接ぎ木の成功率は2割ほどだったといい、世話人代表の伊藤正義さん(70)は「娘をデビューさせるような気持ち」と喜ぶ。

植樹を記念し、伊藤さんや小沼さんが中心になって「平成の世に甦る! 名勝小金井桜大復活祭」を開く。2月11日午後2時から関野橋付近のモデル地区、同3時から小金井橋で、それぞれ植樹祭をする。同12日午後1時半からは「萌え木ホール」でパネルディスプレイ「桜のまちづくりサミット」。サミットの申し込みは往復はがきに住所、氏名、電話番号を書いて、〒184・8504 小金井市本町6の6の3 市生涯学習課「桜のまちづくりサミット係」へ。31日の消印有効。

小金井市

名勝小金井桜復活へ

都と市、市民団体が協働で

多摩地域で、かつての武蔵野の面影を残す玉川上水。その川堤に植えられ、国の名勝にも指定されている小金井桜を復活させる取り組みが、都と小金井市、地元市民団体によって進められている。以前は西の吉野と並び称された小金井桜だが、車の排ガスや雑木の影で樹木の枯死が進む。昔の華やかな姿は戻るか。市民からも熱い期待が寄せられる。

組織・自治体間連携が鍵

■都市化で衰退

小金井桜は、玉川上水の桜並木の総称。武蔵野の新田開発の際、桜が持つと言われていた浄水効果や、にぎわい創出のため、8代将軍徳川吉宗の命により大和(奈良県)の吉野と常陸(茨城県)の桜川から取り寄せた苗木を小金井橋付近に植えたのが始まりだ。

その後、江戸からの花見客も増え、関東随一の花見の名所として西の吉野と並び称された。1924年(大正13年)には多種多様な山桜の天然変種の一大集積地として、吉野や桜川、仁和寺(京都府)の桜とともに国の名勝に指定されている。桜を管理する都教育庁文化財保護係は、「樹齢もあるが、排ガスやケヤキが日照を遮る影響で、大きく変わる。北側を走る

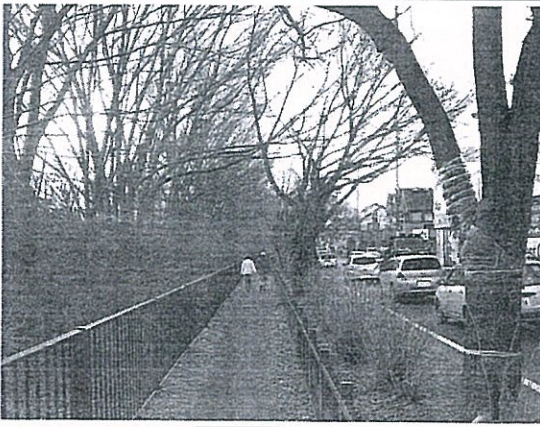
北側の桜の成長が阻害されるケースが多い」と話す。かつて名勝指定区間の約6キロには1100本以上の桜が植わっていたが、09年の調査で883本にまで減った。玉川上水の小金井桜が勢いを失う一方、54年には近くに都立小金井公園が開園。花見の主役の座を譲った。

■縦割りの弊害

「ここに来て、やっとスタートが切れた」。小金井市の元職員で、小金井桜の継承に取り組む市民団体「名勝小金井桜の会」の事務局長・小沼廣和さんは感慨深げに話す。桜の会が発足したのは

96年。この間、行政に働きかけてきたが、都だけでも関連部署が8局に分かれる縦割りの弊害もあり、取り組みは進まなかったという。転機は09年8月に玉川上水の所有者となる都水道局が「史跡玉川上水整備活用計画」を策定したこと。玉川上水の保存に向け、小平監視所から浅間橋(杉並区)までの約18キロを対象に、今年度

から10年間で取り組む施策をまとめた。小金井桜の保存についても、都立小金井公園付近の約640本をモデル区間とし、今年度から3カ年の計画を打ち出した。水道局がまず着手したのは、桜の日照を妨げる雑木の剪定・伐採だ。昨年11月に先行区間の150本で、ケヤキなど55本を伐採。緑環境を保全するため、桜の成長に影響



がない木は残し、萌芽更新や法面保護のために伐採木の根も残した。伐採後は、都教育庁と地元の市民団体が山桜の植樹を実施する。その第一弾として、2月11日から3日間開催する「名勝小金井桜大復活祭」で、モデル区間に計29本の桜を植樹する。

小沼事務局長は「やっと水道局が土地を提供し、教育庁が植栽、市も巻き込む流れができた。モデル区間以外の整備につなげるよう、確固たる取り組みにしたい」と話す。

植えられるのは、小金井桜から接ぎ木した苗木のほか、同じ系譜の吉野と桜川の桜、それに小金井桜を移植したと言われる岩手県北上市(展勝地)新小金井橋付近の玉川上水。歩道と車道の間に桜並木。玉川上水がある写真左側には大きなケヤキが繁茂する

の桜に限られる。当面は、現地の小学生らが接ぎ木で育てた苗木を提供してもらうが、「多種多様な山桜の集積地」を維持するためには、多様な山桜を植えることが必要となる。

小金井市の役割の一つが、こうした後継樹の確保だ。また景観整備として緑道や人通り、フェンスの整備なども行う予定で、来年度以降、設計に着手する考え。このほか、散策のためのパンフレットやルートの整備などソフト面の施策も展開する。

■桜とともに発展

「小金井市は桜とともに発展してきた。市としても、桜に再び人が集まるようソフト・ハードの整備を進める」。市生涯学習課文化財係の伊藤富治夫係長は、そう話す。市の中心部となるJR武蔵小金井駅は、188

9年の甲武鉄道開業時には造られず、花見のための臨時駅として1924年に設置。その2年後に常設となった。市の桜への思いは強い。

一方で、復活に向けては課題もある。その一つが市民の理解だ。桜復活は緑環境の保全に聞こえるが、玉川上水のケヤキの大木を伐採するため、緑破壊に映る懸念もある。「ケヤキを切ることで下草が生え、かつての

武蔵野の景観が復活する。市民の理解を得るため、モデル事業の中で検証を進めながら取り組みを進めたいと伊藤係長。他方、市民目線から小沼事務局長が指摘するのが行政間の連携だ。都の中でも所管が複数に分かれるほか、近隣自治体との連携も重要になる。「行政の壁は厚い。広域連携の視点を持って取り組んでほしい」と要望する。

ヤマザクラとソメイヨシノ豆知識



日本古来の桜はヤマザクラ

ヤマザクラは、日本固有の桜で東北地方から九州まで広く分布しています。中でも奈良県の吉野山のヤマザクラは有名ですが、名勝 小金井桜のヤマザクラは並木です。ソメイヨシノが明治以降全国に植えられ、今や日本を代表する桜となりました。桜といえどヤマザクラと昔から人々に親しまれてきました。

葉と開花・その関係は？



ヤマザクラは東京周辺ではソメイヨシノよりもやや遅く開花しますが、早咲きのものもあります。また、ソメイヨシノは花が咲き終わるまで葉が開きませんが、ヤマザクラは開花と同時に葉が開きます。

繁殖の仕方とその性質



ソメイヨシノは接ぎ木で繁殖するため、どの木も同じ時期に開花し、花の色も形も変わりありませんが、ヤマザクラは自然交配によって繁殖するので開花時期、花の色、形、大きさや葉の若芽の色などが一本一本毎に異なり、見る人目を楽しませてくれます。

名勝 小金井桜

明治時代の有名な植物学者三好博士の研究により、玉川上水堤の小金井桜のヤマザクラ並木は天然変種の一だ集積地であることが明らかになりました。大正13年奈良の吉野山、茨城の桜川と一緒に国の名勝として指定されました。

名勝 小金井桜の会の活動

文化遺産である小金井桜のヤマザクラ並木を次代に継承し、「小金井桜の並木復活」を目的として平成19年に発足しました。私たちは小金井桜復活計画の実現に向けて、行政や関係団体と協力し、後継樹として植樹するための苗木を種から育てる活動を進めています。

会員募集中、気楽に入会して一緒に楽しみましょう

①樹勢調査 (平成14年開始)

毎年7月に桜の毎木調査を行い、報告書を作成しています。

②定期パトロール (平成20年開始)

月1回の定期パトロールを行い、レポートを作成しています。

③落ち葉回収作戦 (平成14年開始)

毎年11月に市内中学生をはじめ各種関係団体に呼び掛けて玉川上水周辺の落ち葉回収を行っています。

④小金井桜写真展 (平成11年開始)

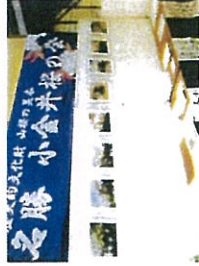
小金井桜を写した写真を公募し、写真展を開催しています。

⑤自主公開講座

小金井桜をテーマに公開講座を適時開催し学習しています。

⑥イベントへの参加

毎年4月の「さくらまつり」
9月の「お月見のつどい」
10月の「市民まつり」
に参加しています。



発行・編集 名勝 小金井桜の会

発行年月日 平成22年11月

会長 石田 精一

事務局 小金井市緑町3-1-12

TEL/FAX 042-301-5132

E-mail kazu2@jcom.home.ne.jp

<http://koganei-sakura.web.infoseek.co.jp>

名勝 小金井桜の復活

★さくら基金のお願い★

あなたの募金が「桜復活の未来」に繋がる！



名勝 小金井桜の起源は元文2年(1737年)江戸幕府の御田問免の一環として玉川上水の兩岸に植樹されたヤマザクラの並木です。奈良県の吉野山と茨城最北端から取り寄せたとされる山姥桜です。

このヤマザクラの並木は、江戸時代から地元の人たちにより守られてきましたが、幕府の代官たちも雑木の伐採や桜の苗木の補植を進めるなど、桜を守る努力を続けてきました。

今、危機的状況にある国の名勝「小金井桜」を私たちの代で絶やすことなく、後世に引き継がなければならないと思います。

皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

名勝 小金井桜の会

小金井桜 検索

目的と管理

名勝 小金井桜の会(以下当会と称する)が、名勝 小金井桜の復活を目指して実施する活動のための資金とします。そのため、基金専用の口座で管理し、次の使途に限定して活用させていただきます。

- 後継樹の種子・苗木の収集と育成
- 後継樹の維持管理
- さくら基金の広報など

募金の方法

1. 口座振込み

振込み先	多摩信用金庫小金井支店
普通預金 口座番号	2387825
受取人	名勝 小金井桜の会
	東京都小金井市緑町3-1-12(小沼方)

上記の必要事項を明記し、多摩信用金庫小金井支店・小金井南口支店の窓口で当会の振込み依頼書でお振り込みいただく手数料が不要となります。

2. 募金箱(1円から)

当会が開催する各種活動場所及び「名勝 小金井桜 さくら基金」の表示のある協力店などに募金箱が設置されています。

募金のご協力をお願いします。



皆様のご意見・ご要望など事務局までお寄せください

玉川上水堤の

「名勝 小金井桜」

ヤマザクラ並木復活・再生の進め方

協働で...

管理者である東京都、小金井・小平・西東京・武蔵野の地元自治体と市民とが力を合わせてコラボレーション事業として進めます

後継樹は...

吉野山(奈良県)・桜川(茨城県)北上(岩手県)及び小金井で育成した名勝 小金井桜の系譜に沿ったヤマザクラの苗木に限定します

東京都の役割

- 玉川上水の名勝 小金井桜区間6kmを10年計画で整備します。
- 新小金井橋から関野橋の640mの区間をモデル地区として平成24年度までに整備します。
- 小金井桜全体の維持管理を行います。



雄木に搬入された桜並木



未来の桜並木

小金井市・関係自治体の役割

小金井桜後継樹の苗木確保及び緑道の整備などを行います。



さくらんぼ拾い

梱え付け作業

発芽した後継樹



昔の小金井桜並木の復活を目指して



名勝 小金井桜の会・市民団体の役割

- 後継樹の苗木を育てる活動を行います。
- 地域の大事な文化遺産「名勝 小金井桜」を守り育てる運動を全市民的に広めます。



子供たちと共に



可憐な小金井桜



見事に咲いた豊満な小金井桜

小金井桜関係略年表

西暦	年 号	月 日	事 項 ・ 文 献
1653	承応 2	2. 11	関東郡代伊奈半十郎忠治玉川水道奉行を命ぜられる。『嚴有院殿御実紀』
1654	3	6. 20	玉川上水竣工。『嚴有院殿御実紀』
1655	承応 4	3. 20	野火止用水竣工。『榎本弥左衛門万之覚』
1657	明暦 3		小川村分水・国分寺村・小金井村分水等許可。『上水記』
1670	寛文10	5. 25	玉川上水路を3間に拡張し、兩岸に堤を築き樹木を列植する。御徒目付藤井善右衛門充仙・江守伝左衛門正勝その奉行を命ぜられる。『嚴有院殿御実紀』
1720	享保 5	9.	徳川吉宗、飛鳥山に桜 270 本植栽。『有徳院殿御実紀附録卷 16』
1722	7	6. 28	徳川吉宗、大岡越前守忠相を関東地方御用掛に任じ、延享2年(1745)5月まで24年間江戸町奉行・寺社奉行のほか新田開発等の農政を兼帯させる。
1736	元文元		大岡忠相配下の代官上坂安左衛門政形、武蔵野新田の検地を行ない、武蔵野四郡 82 カ村総石高 12,600 石を打ち出す。
1737	元文 2		川崎平右衛門定孝、幕府の命により、小金井橋を中心とする玉川上水兩岸に桜樹を植栽する。『小金井桜樹碑文』。享保年間(1716~36)や寛保年間(1741~44)の説もある。
1739	4	8.	大岡忠相、川崎平右衛門定孝を南北武蔵野新田世話役に登用する。
1748	延享 5		このころまで、小金井桜植栽。『玉川参登録伝』
1767	明和 4	6. 6	川崎平右衛門定孝、江戸にて病死。押立村の竜光寺に葬る。
1768	明和 5	9. 5	玉川上水が町奉行管理から普請奉行管理に変わる。
1776	安永 5	この頃	川崎平右衛門手代高木三郎兵衛、『御代官川崎平右衛門宛起書』記述。
1794	寛政 6	11.	古川正辰(平次兵衛・古松軒)『四神地名録』を勘定所へ提出。小金井桜の文献初出。
1795	寛政 7	10. 9	石井子亭(清瘦園・永貞)多摩・入間郡を12日間にわたって視察し、紀行文『武野遊草』にまとめる。
1797	9	2.	大久保扶南『武埜八景』刊行。「金橋桜花」を選ぶ。
1801	享和元	3. 4	屋代弘賢『小金井橋に遊ぶ辞』記す。
1803	3	2. 24	辻 知篤『小金井橋花見の記』記す。
		12.	柳川 亭『享和雜記』巻四に行楽地として紹介。
1804	文化元	3. 12	『増補江戸年中行事』刊行。三月の桜の項に小金井橋紹介。
1806	3	2. 26	露庵有佐『玉花勝覧』刊行。
		2. 28	屋代弘賢再び観桜。『小金井之記』記す。
		この頃	佐藤一斎、林述斎と観桜。『愛日樓文時 3』『小金井橋観桜記』刊行。
			松崎徳堂観桜。『玉川渠七橋観花後記』記す。
1809	6	2. 30	大田南畝、多摩川巡視中に観桜。『調布日記』等記す。
1810	7	3. 21	石井子亭(清瘦園・永貞)等『小金井桜樹碑』建立。
1812	9		村尾嘉陵(正靖)『嘉陵紀行』記す。
1813	10	2. 23	十方庵敬順観桜。『遊歴雜記』記す。
1815	12	3. 12	斎藤鶴磯、武蔵野の地誌『武蔵野話』刊行。
1822	文政 5	2. 29	橋樹園山田早苗観桜。『梅桜紀行』『小金井紀行』記す。
1823	6	10.	上田孟縉『武蔵名勝図会』十二巻を大学頭林銑に献ず。「多摩郡之部卷二 小金井桜」記す。
1826	9	3.	越前丸岡藩主有馬普純、次男純佑等を伴い騎馬で観桜。『小金井観花図巻』記す。
1827	10		岡 山鳥『江戸名所花暦』刊行。挿絵長谷川雪旦画『小金井橋満花』
1828	11		間宮士信、『新編武蔵風土記稿』記す。「多摩郡之四十武蔵野新田」○下小金井新田の項で小金井桜紹介。
1830	13	3.	桜樹数 169 本、他に近年補植 20 数本。『玉川上水緑桜植立絵図』
			玉川上水兩岸の下草刈りが持ち場村に、隔年実施が義務づけられる。
1834	天保 5	1.	斎藤月岑(幸成)『江戸名所図会』巻四に小金井桜紹介。
1835	6	この頃	歌川広重『武州小金井堤満花之図』刊行。
1837	8	この頃	歌川広重『江戸近郊八景之内小金井橋夕照』刊行。
1838	9	初冬	斎藤月岑(幸成)、『東都歳事記』刊行。二月「単弁桜」の項で小金井橋の兩岸紹介。
1843	14	3. 2	老中水野忠邦等幕閣、多人数騎馬で観桜。『本多良雄家文書』
1844	15	2. 25	將軍世子(13代將軍家定)観桜。『江戸名勝古跡』
1845	弘化 2	3.	代官築山茂左衛門、桜並木取締につき触れる。『平野家文書』

1850	嘉永 3	1. 30	代官大熊善太郎、上水縁の村々に桜の苗木植付けを命ずる。『下田家文書』
	3	2. 9	補植を実施、合計 131 本。田無市下田家文書『桜苗植付手控帳』。
		初冬	松亭金水解説歌川広重画、『絵本江戸土産 四編』刊行。挿絵 3 図。
1851	4	8.	田無村名主下田半兵衛、関野橋下流の上水左岸に『桜樹接種記』建立。
1852	5	2.	代官勝田次郎、桜保護のため雑木を伐採するよう命ずる。『公用分例略記』
1855	安政 2	3. 21	代官小林藤之助、境・梶野・小金井・鈴木各新田四ヶ村に桜の苗木代・肥料代として 311 本分 5 両余を下付。
		8.	代官小林藤之助、補植の経緯について勘定所に上申。『小金井桜植添申上』
1856	3	2. 11	左岸桜樹数 470 本（大 49・中 41・小 172・古木 4・苗木 204）『御上水縁通桜木員数書上帳』、右岸桜樹数 647 本（大 54・中 17・小 125・苗木 91）『公用分例略記』
1862	文久 2		普請奉行が廃止され、玉川上水の管理は作事奉行に移される。
1864	4		蜂屋光世、『江戸名所和歌集』刊行。小金井桜関係の歌 7 首掲載。
1868	明治元	6. 10	玉川上水の所管を市政裁判所とする。
1870	3	4. 15	分水改正。玉川上水通船開始。『玉川上水通船一件』
1872	5	5. 30	玉川上水汚染により、通船廃止。『玉川上水通船一件』
1876	9	4. 2	神奈川県、玉川上水桜並木取締下達。『平野家文書』
1880	13	4. 13	昭憲皇太后行啓。この年、東京府桜樹補植。桜樹総数 878 本『東京市史稿』
1881	14	8.	貫井新田、自費で桜を補植。東京府から賞詞。『鈴木英男家文書』
1883	16	4. 23	明治天皇小金井桜観桜、小金井橋の柏屋で休憩。『明治天皇紀』
1885	18		下小金井新田鈴木長三郎、『武蔵野小金井桜道志留閑』を刊行。
1889	22	4. 11	甲武鉄道、小金井桜の開花に合わせて開業。境と國分寺に停車場できる。
		4. 22	市制施行と同時に水道事業を東京市に引継ぐ。『東京市史稿』
1891	24	4. 13	甲武鉄道、この年以降花見時に観桜列車運行。往復割引切符発行。
1893	26	4. 1	三多摩地域が神奈川県から東京府に編入。
		10. 22	淀橋浄水工場において水道工事起工式挙行。『東京市史稿』
1898	31	12. 1	改良水道工事大部分竣工。神田・日本橋両区に給水開始。『東京市史稿』
1900	33	4. 15	皇族・政府要人騎馬で遊乗り。『小金井の遊乗り』『日本』同日付
1901	34		大町桂月（紀行文学者）、『小金井の桜』記す。
1902	35	4.	小平村有志、明治天皇の行幸記念に、『行幸松碑』を建立。
1905	38	4.	三好 学、『日本植物景観』で小金井の山桜を初めて紹介。
1906	39	3.	山下重民編、『風俗画報 337』別冊『小金井名所図会』刊行。
1910	43	この頃	三好 学、天然記念物の保存運動を始める。
1911	44	3. 15	史蹟名勝天然記念物保存協会、貴族院に『天然記念物保存ニ関スル建議』提出
1912	45	4.	同協会東京市に『小金井上水路堤上桜樹保護施行出願書』提出。
1913	大正 2	5. 5	東京市、『小金井桜樹保護方法』策定。
		7.	小金井村・小平村・保谷村・武蔵野村有志『小金井保桜会』設立に着手。
		11.	東京市会、『小金井桜樹保護に関する建議』議決。
		12.	福島甲子三等、東京市会へ『小金井桜樹保護に関する建議』提出。
1914	3	この頃	小金井・小平両村有志、貫井橋～陣屋橋付近までの玉川上水堤に、キリシマツツジ等を大神村（現昭島市）から移植する（現在 190 本）。
1915	4	4. 18	小金井保桜会海岸寺で発会式挙行。『小金井保桜会報告』
1916	5	2. 25	三好 学、『日本産ヤマザクラの野生品種並びに栽培品種』『東京帝国大学理科大学紀要第 34 冊』で、小金井サクラ新品種 38 品種 3 亜種発表。
1919	8	3. 28	東京府、『東京府史蹟』刊行。富士見桜・日の出桜の写真掲載。
		4. 10	内務省、『史蹟名勝天然記念物保存法』公布。
1920	9		保桜会・桜の会、共同経営苗圃に小金井産のヤマザクラ 3,000 本栽培。
1921	10	5. 15	三好 学、『桜花図譜』・『桜花概説』刊行。
1923	12	5. 28	東京市桜樹数調査。右岸 761 本、左岸 710 本、合計 1,471 本。
1924	13	4.	鉄道省、花見シーズン、小金井に臨時停車場設置。乗降客一日 56,000 人
		9.	内務省、『史蹟名勝天然記念物調査報告』第 35 号刊行。
		12. 9	内務省、小金井桜を名勝に指定。

1925	14	6. 11	東京市公園課が管理団体に指定される。
		9.	桜樹総数 1,468 本（左岸 710 本・右岸 758 本）『小金井の桜』
1926	15	1. 10	武蔵小金井駅が開業
(昭和元)		3. 10	東京市公園課、『史蹟名勝天然紀念物概観』・『小金井の桜』刊行。 この頃花見の最盛期。付近の農家では花見茶屋営業。
1927	昭和 2	3.	村山下貯水池（多摩湖）完成。
		3. 31	東京市、三好学編『小金井桜花図説 1』刊行。
		4. 16	東村山鉄道花小金井駅開設。
1930	昭和 5		山田菊雄、小金井桜品種増殖のための接穂採取を行なう。 小金井橋が、アーチ式の石橋に改良される。 この頃までが花見の全盛期。桜樹本数 1,445 本。
1936	昭和 11	4.	「小金井保桜会」活動中止。花見の賑わいも社会情勢の変化に伴って下火になる。戦中・戦後は桜の管理が放漫となり、老木の枯死が進む。
1952	昭和 27	3. 01	桜堤管理者塩屋格、三好学命名 16 品種確認。「桜堤管理者のことは」『武蔵野手帳』第 7 号 武蔵野観光協会小金井支部「桜まつり」開催。『小金井町報』第 5 号
1954	昭和 29	4. 3	都立小金井公園一部開園、園内にサクラの園を造成。 五日市街道が日米行政協定による道路に指定され、拡幅舗装。車両の通行に支障ある高さ 4 m 以下の枝や根を伐採する。
1955	昭和 30	4.	第 1 回春の小金井さくら祭り、写真コンクール開催。『小金井町報』第 26 号
1962	昭和 37	7. 26	東京都風致地区条例による風致地区に追加指定。
1963	昭和 38		上水堤に歩行者用安全柵ができ、これまでのような花見ができなくなる。 小金井公園に花見の拠点が移る。
1965	昭和 40	3.	淀橋浄水場が廃止、小平監視所下流が上水の機能を失う。桜樹数 730 本。
1964	昭和 42	4. 1	名勝小金井（サクラ）の管理団体が東京都建設局から東京都教育委員会に変更。
1968	昭和 43	3. 31	小金井市観光協会、桜 260 本植樹。
1971	昭和 46		小平監視所下流の水流完全停止。下草刈りが行われなくなり、雑木類の繁茂が進行する。
1974	昭和 49	7. 20	玉川上水路の崩壊が進行し、「小平市玉川上水を守る会」結成。
1976	昭和 51	5. 11	小金井橋～梶野橋間の玉川上水堤に、昭和 58 年までにアジサイ約間 700 株植栽
1978	昭和 53	4. 10	小金井市、昭和 55 年度まで玉川上水堤に歩道等整備工事実施。
1979	昭和 54		観光協会 58 年度まで、117 本植樹。『小金井市経済課資料』
1983	昭和 58	4. 1	東京都企画報道室に玉川上水保全協議会を設置。
1986	昭和 61	8. 27	東京都、清流復活事業として、小平監視所下流に環境保全用水（下水処理水）を放流。
1992	平成 4		小平市、喜平橋～茜屋橋右岸に歩景路工事実施。
		11. 27	玉川上水保全協議会に史跡指定準備検討会（東京都企画審議室調整部所管）を設置。 東京都教育委員会、玉川上水現況調査ならびに名勝小金井（サクラ）現況調査実施。
1993	平成 5		小金井橋下流左岸の御成松（樹齢推定 150 年）枯死。翌年 1 月小金井市が伐採。
1994	平成 6		

（小金井市教育委員会作成年表によった部分が少なくない）

国内で現存するサクラのうち下記の 10 件が国の名勝に指定されている。

名 称	所在地	指定年月日	管理団体	管理団体指定
桜 川（サクラ）	茨 城 県	大正 13. 12. 9 昭和 49. 6. 25 追加指定	岩 瀬 町	大正 14. 8. 13
小 金 井（サクラ）	東 京 都	大正 13. 12. 9	東 京 都	大正 14. 6. 11
御 室（サクラ）	京 都 府	大正 13. 12. 9	仁 和 寺	
吉 野 山	奈 良 県	大正 13. 12. 9	奈 良 県	大正 14. 11. 12
木 曽 川 堤（サクラ）	愛 知 県	昭和 2. 8. 11	愛 知 県	昭和 3. 2. 9
霞 間 ケ 溪（サクラ）	岐 阜 県	昭和 3. 2. 17	池 田 町	昭和 3. 9. 19
三 波 川（サクラ）	群 馬 県	昭和 12. 4. 17	鬼 石 町	昭和 12. 8. 26
千 足 の サ ク ラ	愛 媛 県	昭和 16. 12. 13	玉 川 町	昭和 17. 2. 14
三 多 気 の サ ク ラ	三 重 県	昭和 17. 7. 21	美 杉 村	昭和 17. 9. 25
檜 木 内 川 堤（サクラ）	秋 田 県	昭和 50. 2. 18	角 館 町	昭和 51. 7. 26

史跡名勝天然記念物:吉野山

詳細解説

吉野ハ其ノ名夙ニ國史ニ著レ齊明天皇以來天武持統文武天正聖武等御歴代御幸ノ事アリ中古ハ金峰ノ信仰ニヨリテ山上隆盛ヲ極メシカ後元弘建武ノ際ヨリ吉野朝トノ關係特ニ深ク史蹟トシテ普ク世ニ知ラルヘニ至レリ吉野ハ亦櫻ノ名所トシテ其ノ來歴ノ古キト其ノ樹數ノ多キトハ實ニ全國ニ冠タリ櫻樹ハ悉ク白山櫻ノ純系統ニ屬シ其ノ數ハ拾萬本ニ達ストセラレ其ノ中自ラ多數ノ品數アリ全山中櫻樹最モ多キハ一目千本ニシテ花期ニハ山容悉ク櫻花ヲ以テ充滿セラルヘノ觀ヲ呈ス其ノ他中千本上千本奥千本等アリテ花期其ノ妍ヲ競ヒ地勢ノ高低ニヨリ其ノ景觀自ラ異リ實ニ他ニ其ノ比類ヲ見サルトコロナリ

史跡名勝天然記念物:桜川(サクラ)

詳細解説

古來桜花ノ勝地トシテ其ノ名著ハル桜樹ハ東北産ノ品種ニ屬スル白山櫻ニシテ數百年ヲ經タル巨大ナルモノアリ花色ニ淡紅ヲ帶フルモノ花梗ニモアルモノ花ニ芳香アルモノ多キハ其ノ特徴トスル所ニシテ他ニ多ク其ノ類例ヲ見ズ樹數ハ多カラサレトモ特徴アル品種ノ一箇所ニ集マレルノミナラズ關東ニ於テ所謂關東桜ノ中ニ東北種ノ斯リ美觀ヲ呈スルハ密ニ桜花ノ名所トシテノミナラズ學術上ニ於テモ貴重ナリトス S49-5-151桜川(サクラ).txt: 従来の指定地域は磯部神社参道両側の堤塘延長約1キロメートルであるが、その中央部の広場(5.5平方キロメートル、ヤマザクラ百数十本あり)は指定地域に入っていないので、これを追加指定するものである。

史跡名勝天然記念物:桜川のサクラ

詳細解説

目通り幹囲5メートル、推定樹齡250年のものを筆頭に、総数577本に及ぶヤマザクラの群であって、青毛、薄毛、勾樺その他ヤマザクラの品種に富む。よって従来の名勝にあわせて天然記念物に指定し、これら品種の保存を図るものである。

茨城県岩瀬町の磯部神社は、その参道や神社が座す丘の斜面に多くのヤマザクラが見られ、桜の名所として広く知られてきた。このヤマザクラは東北地方に産するシロヤマザクラで、淡紅色の花ばかりでなく芽ぶき時の赤芽もみごとで、名勝にも指定されている。

史跡名勝天然記念物:小金井(サクラ)

詳細解説

東京府下ニ於ケル桜花ノ名所トシテ世ニ聞ユ桜樹園ハ元文年間幕府ノ命ニ依リ武蔵新田世話役川崎平右衛門ノ種植ニ係リ現ニ玉川上水ノ兩岸ニ桜並木トシテ約一里半ニ亘リテ好ク成長繁茂シ其ノ數千餘株アリテ大木ト成レルモノ尠カラス、モト吉野及桜川ノ白山桜ヲ移植シタルモノナルモ多數ノ天然變種アリテ若葉ノ色、花ノ色、形、大サ花期ノ早晚等区々ニシテ殆ト樹毎ニ異ナルガ如キ觀アリ實ニ白山桜トシテ品種ノ多キト変化ノ多キト及大木ノ多キトハ小金井ノ桜ノ特徴トスル所ニシテ本邦屈指ノ桜花ノ勝地ナリ

史跡名勝天然記念物:玉川上水

詳細解説

玉川上水は、江戸時代前期、江戸市中への給水を目的として、武蔵国多摩郡羽村(現・東京都羽村市)の多摩川に取水口を設け、江戸の東の入口にあたる四谷大木戸(現・同新宿区)に至るまでの約4.3km間を自然流下により導水する施設として掘削された素掘の開渠水路である。工事は幕府の命令により玉川庄右衛門・清右衛門兄弟が請け負い、承応2年(1653)2月に着手、翌年6月に竣工したとされる。江戸市中に入った上水は、石樋・木樋等の暗渠水路で江戸城・武家屋敷・庶民の居住地等に配水され、飲料水のみならず、防火用水・泉水用水・堀用水等多目的な機能を有する都市給水施設として人々の生活を潤した。

それとともに、玉川上水は、羽村から四谷大木戸に至るまでの武蔵野台地の新田開発の灌漑及び生活用水としても機能しており、江戸時代中期の寛政年間までに33箇所の分水施設が設置されるに至っている。また元文年間には小金井付近を流れる上水の堤に桜が植えられ、江戸近郊の行楽の場ともなり、大正12年(1923)には名勝「小金井(サクラ)」に指定されている。

近代に至り衛生思想の移入に基づく近代水道が明治31年(1898)に東京に導入されると、淀橋浄水場(新宿区)が建設され、浄水場で緩速濾過した水が都心部に給水されるようになった。玉川上水の水は浄水場に導かれ、江戸時代に引き続き活用されたのである。その後、昭和40年(1965)に淀橋浄水場が廃止され、小平監視所(小平市)から下流は導水路の役割を終えたが、羽村取水口から小平監視所までの上流部は今なお水道導水路として修理・維持管理されながら機能している。

現在、浅間橋(杉並区)以東の下流部は多く暗渠となり公園等として利用されていて往時の面影はごく一部しか残存しないが、小平監視所から浅間橋までの中流部は近世の素掘り水路の状況を残す部分が多い。また上流部は現役の水導水路として使用されているため改変された部分が多く見られるが、近代の歴史的土木施設としての価値をも有するものである。

このように、玉川上水は、優れた測量技術に基づく長大な土木構造物であって、近世初期における水利技術を理解する上で重要であるばかりでなく、近世都市江戸の用水供給施設として、また武蔵野台地の近世灌漑用水として貴重な土木遺産である。しかも、改修が繰り返されてはいるものの、かつての路線のまま連続して残されていることの意義は、まことに大きい。よって羽村取水口から四谷大木戸までの水路のうち、開渠部分の約3.0.4kmを史跡に指定し、その保護を図ろうとするものである。

「吉野山千年桜の歴史と現状」

吉野山保勝会 事務局長 山本 茂之

○豊かな自然環境と歴史文化遺産を誇りに

吉野山の位置と歴史的背景

奈良県の中央部に位置し、吉野熊野国立公園、県立吉野川津風呂自然公園などに指定されるなど豊かな自然に恵まれた地域であるとともに、大和平野や和歌山と伊勢を結ぶ伊勢街道などの交通の要所地であり、桜と南朝哀史、修験道の聖地として知られ、吉野山地域全域が史跡・名勝に指定され、2004 年 7 月に霊場「吉野・大峯」が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録される。

○1300 年受け継がれてきた吉野千本桜

今から 1300 年前、吉野の桜は、役行者により「修験道」のご本尊、蔵王権現のご神木となったことにより、献木として植え続けられてきた。その後も大阪の豪商が 1 万本の桜を寄進したことなどにより、現在の 3 万本の桜の吉野山となっている。これまでに、豊臣秀吉や西行、芭蕉、良寛、本居宣長など多くの文人墨客が訪れている。

○満開の桜の影には・・・

年間 80 万～100 万人の観光客が吉野山へ訪れる。そのうち半数近い 30 万～40 万人が観桜客である。

ピーク時には、どこの観光地にありうる交通渋滞、ゴミ対策が悩みの種であった。

打開策として、平成 17 年から行政や地域住民などで構成する「吉野山交通・環境対策協議会」を設置し、パーク＆バスライドの実施やバス駐車場の予約制の実施を行い、今では一定の成果を得ている。

○心配される吉野の桜

昔から幾度か吉野山のさくらは、危機的な状態になったこともあったが、平成元年ころから吉野山の桜の衰退が顕著に表れてきた。

平成 6 年に奈良県や、吉野町、吉野山保勝会が中心となって「吉野山さくら検討委員会」を設置し、桜の再生を図りながら、地域住民の協力を得ながら通常の桜の管理を行ってきた。

○なぜ桜を守るのか？桜を守る取り組み

平成 17 年頃から若木の衰退が顕著に表れたことにより、平成 20 年に京都大学大学院の森本裕幸教授を中心とした「吉野山サクラ調査チーム」を結成し、桜の衰退す

るメカニズムを分析調査し、総合的な管理計画の作成を目指している。

地元小学校では、桜への関心を深くするために、サクランボ拾いからはじめ、苗を育て、植樹などを行なっている。

平成 20 年秋には、読売新聞大阪本社、奈良県、吉野町、地元団体が構成する、「吉野山の桜を守る会」が結成され、吉野山の桜の現状を知ってもらい、保護、育成の大切さを訴えるフォーラムの開催や桜樹林の保護育成のための運用資金の募金活動や、「吉野さくら応援団」結成のための運動が展開されている。

その他、地元の南都銀行がこの 1 月から「吉野桜定期預金」の募集を始め、定期預金総額の 0.01%をまた、イオンの地域カード「吉野さくらWAON」の販売により、利用額の 0.01%を桜の保護・育成のために寄付していただくなど、企業のCSR（社会貢献）が展開されている。

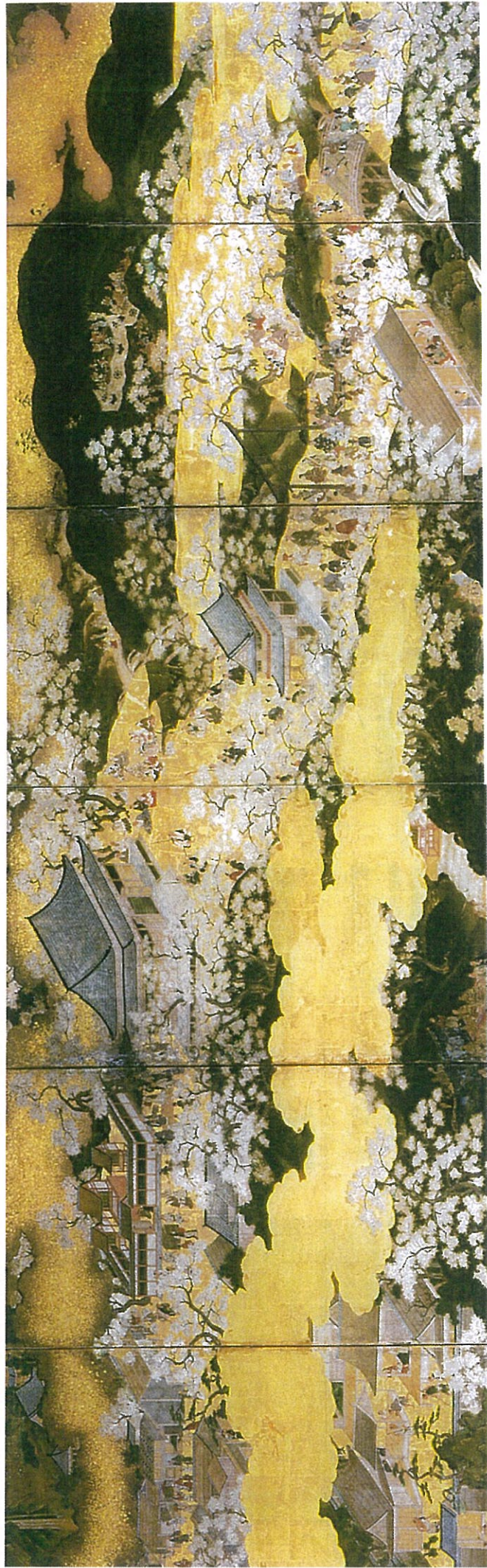
○地域で守り育てる千年の桜

地元住民で桜を守り伝えていくだけでなく、全国各地から暖かい手が差し伸べられている。これも桜は日本人の心の深いところに根ざしているからであると思われる。

1300 年の長きにわたって先人達が残してきた財産。親から子へ、子から孫へと受け継がれてきた桜を、これからも保護・育成及び環境整備に努め、日本の代表的な「サクラ」を地域で守り、育てていかなければならない。

吉野・千年の桜物語





○重要文化財「豊公吉野花見図屏風」＝部分（細見美術館蔵）

～吉野の桜

古来、吉野山は桜の名勝地として知られています。それは、約1300年前に山岳宗教の修験道の本尊、蔵王権現の「御神木」になったことに由来します。

修験道の開祖とされる役行者が大峯山で一千里の難行苦行の果てに、憤怒の形相もいかめしい蔵王権現を感得し、この尊像こそ濁世の民衆を救うものだと、たまたま傍らにあった桜の木に刻み、これを吉野山にまつたとされています。その後、役行者の神秘的な伝承と、修験道が盛行するにつれて、蔵王権現を本尊としてまつる吉野山・金峯山寺への参詣もさかになり、桜は「御神木」としてあがめられ、「御木」というがたちで伝え続けられてきました。

歴史物語～

10世紀に成立した「古今和歌集」では吉野が桜の名所として登場し、12世紀には西行が吉野山の桜を詠んだ歌を数多く残しています。西行は吉野山の花に身も心も奪われて、「山家集」などの歌集を残しています。そのなかで、いかに西行が心を奪われていたのかが証となる歌として「吉野山 こそゑの花を見し日より 心は身にも そはすなりにき」や「花を見し 昔の心あらためて 吉野の里に住まんとぞ思ふ」などをすぐにあげることができます。

年ごとに変わらぬ花を咲かせる吉野山の桜は、長い歴史の中で人の世の有為転変をつがさに見てきました。14世紀には、天皇親政の夢破れた後醍醐天皇が吉野山で失意のう

ちに生涯を閉じ、一方では位人臣を極めた太閤・豊臣秀吉は、得意絶頂にあった文禄3年（1594）の春、吉野山で豪華な花の宴を開きました。関白の豊臣秀次、徳川家康、宇喜多秀家、前田利家、伊達政宗ら武将をはじめ総勢5000人の供ぞろえで吉野山に入り、太閤は吉水院（現吉水神社）を宿舎としました。このときの様子が、重要文化財「豊公吉野花見図屏風」（細見美術館蔵）に描かれており、秀吉の権勢をうかがえるとともに桃山時代の風俗を知る上で大変興味をひきます。天下が徳川の世になると、日々の暮らしの苦しい中にも庶民は太平を謳歌します。神社仏閣への「もの詣で」の旅が盛んになりますが、多くの文人墨客もまた吉野の花を目ざして旅の杖を引

くようになりました。俳人・松尾芭蕉は西行を慕って吉野を訪れ、本居宣長が「菅笠日記」の旅で吉野の花を訪れます。

こうした歴史的な厚みのある吉野山は、他の桜の名所とは質的にも大いに異なる特徴を示しているといえます。

吉野町文化財保護委員会副委員長
桐井 雅行

※桐井雅行「吉野山の桜」
（『吉野山桜物語』1993年3月
吉野町発行に掲載）を
再編集、再収録しました。

「吉野の桜と日本人の心」

江戸時代後期に発行された百科事典「大日本永代節用無尽蔵」の巻頭には、吉野の桜と富士山が描かれています。富士山といえは、国内外の人たちが口をそろえる日本の象徴。その富士山と同じように、古くから日本人が愛し、大切に思っていたものが吉野山の桜なのです。



「大日本永代節用無尽蔵」 金峯山寺蔵

吉野山に建つ金峯山寺は、修験道の役行者が創建したと伝えられています。大自然の中で、神仏を分け隔てなく拝み、大自然と一体となるのが修験道。その基盤は神仏をあがめた山岳信仰にあり、吉野山は「聖なる地」として、役行者に由来する御神木の桜を守ってきました。吉野山の桜は1300年の昔に役行者によって折出された吉野山の主神たる、蔵王権現の御神木なのです。

しかし、御神木が少しずつむしばまれ、枯れていっています。なぜか——。神社仏閣を訪れても、手を合わせることなく、博物館や美術館を拝観するように、ただ眺めるだけの人が増えていると聞きました。今の人々は神や仏に対する畏怖の念が薄れているのではないかと思います。

その原因は明治以降、近代化の名の下に突き進んだ経済至上主義にあります。神仏への畏敬の念だけではなく、古くから日本人が守り、受け継いできた伝統的なものをすべて壊し、経済

の繁栄のみを追い求める野卑な原理によって、大切にすべきなにかを失ってきたような気がします。

その代表的なものが日本人の心です。長い年月をかけて培われてきた価値観が多様化し、自然観、世界観が変容しています。だからこそ、日本人の心を代表する桜花を通して、日本とは何かを見つめ直してほしいのです。

たかが経済のわずらわしいで日本人の心が喪失しつつある現状を、御神木の桜の立ち枯れが教えてくれているように思えてなりません。

吉野山は2004年、ユネスコ世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一角として登録されました。その意味はとてつもなく深いものがあります。日本人だけではなく、今や世界の人々の宝物となった世界遺産はなんとしてでも守り、残していかなければならない大切な大切な景観なのです。

金峯山修験本宗事務総長
田中 利典



桜に彩られた金峯山寺蔵王堂

「桜を守り、育てる」

「桜の枝を折ると、指が切られる」。吉野山で古い言い伝えがあります。住民にとって生活の中に溶け込んだ吉野山の桜は、それほどかがえのないものだということです。

桜の世話をしている吉野山保勝会が設立されたのは1916年（大正5年）。下草刈り、植栽、肥料まき、こけ落とし作業など、年間を通して様々な保護、育成活動をしています。過去には何度も苦難の時がありましたが、その都度、多くの方々の支援を受けながら乗り越えてきました。

いま、テングス病やナラタケ、寄生植物のヤドリギが侵食し、桜の樹勢が衰え、若木が枯れる事態に直面しています。そして、過疎化と高齢化による後継者不足という問題も持ち上がっています。

桜を守る住民の中心が60歳代となり、50歳代が少し、40歳代はほとんどおらず、30歳代になると皆無という事態が起きています。50歳という広大な土地に咲く約3万本の桜を守っていくのは容易なことではありません。立



1本、1本、丁寧に桜を植栽する

ち枯れ被害などの原因究明だけでなく、人の確保も考えていかなくてはなりません。

吉野山の桜は、固有種ヤマザクラで、葉っぱをつけた後に花を咲かせます。山肌をピンク色に染める春は、下千本、中千本、上千本、興千本と花見が楽しめる時期が続きます。谷間から舞い上がる桜吹雪は、優美な世界にいざなってくれます。

私が好きなのは、上千本の覚範（さくはん）首塚周辺から眺める風景です。桜に囲まれるようにして正面に金峯山寺が見え、それは見事です。桜を楽しむスポットはまだたくさんありますので、ゆっくりと散策し、お気に入りの「吉野」を見つけてください。

約1300年の長きにわたって、先人たちが残してきた貴重な財産。類から予へ、そして孫へと受け継がれてきた「吉野の承襲」を、いま途絶えさせるわけにはいかないのです。



噴射機で、幹に生えたこけを落とす

吉野山保勝会理事長
藤井 泰育

桜の調査スタート



山肌を一面に染め上げてくれる吉野の桜ですが、近年、立ち枯れ被害などが目立つようになりまし
た。桜の衰退の原因は何なのか。地元の吉野山保樹会の要請で、2008年の春から、京都大学大
学院教授の森本幸裕氏を団長とする「吉野山サクラ調査チーム」が結成され、現地調査を行っています。

確かに以前にも桜の衰退は指摘されていましたが、ここ近年は、ウメノキゴケの着生が目立ち、
元気だった木が急に枯れたり、状況が深刻化しています。調査は、樹液の流動、葉や根の状態、
ナラタケの発生や土壌や気象などの立地条件を調べて分析し、桜がどのような状態にあるのかを診断
して、その対策を考えることを目的としています。森本教授は、「千年の歴史を持つ桜の吉野山にあっ
て、なぜ、今、どのような衰退が見られるのかを調べていく。気候変動や山と人の関わりの変化もこ
の危機の背景にあると思われる。桜の個体が衰退するメカニズムを解明するとともに、山全体の集団
としての桜の美しい景観を保全するために、地理情報システムなども使った分析を行ない、総合的な
管理計画を提案したい」と話してくれました。

吉野山サクラ調査チーム……

緑の保全が専門の京都大学大学院
教授の森本幸裕氏を団長に結成されま
した。チームは大学だけでなく、菌類
の分野や樹木の保全実績のある専門
家で構成されており、それぞれの専門
性を活かして調査を行っています。



計測機を使って、樹液の流れを調べます。



既に死んでしまっている根から、ナラタケモドキが発生しています。

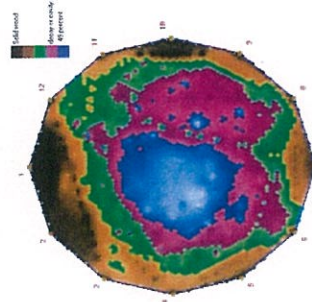
桜の調査スタート



魚眼レンズで樹を下から上に向かって全天写真を撮影。樹冠の様子や日照条件などを調べます。



ウメノキゴケが全体に着生して、樹が白く見えています。ウメノキゴケは成長が遅い個体に着生します。



音波を使って、幹内部の腐朽状況を疑似画像化したもので
す。青は空洞、赤は腐朽した部分、緑は腐朽初期のもので
す。茶、黒は健全な部分ですが、傷みがかかり進行してい
ることが分かります。

吉野の桜を守る会

毎年、満開の花で人々を癒している吉野の桜に、近年、異変が目立つようになっています。衰退した桜に感染するといわれるナラタケが発生したり、幹や枝がウメノキゴケにおおいかぶさるようになったりした木が目立ち、樹齢3~40年の若木が枯れる現象も見られるようになりました。このままでは歴史的景観が損なわれるという危機感から、2008年9月22日、桜の保護、育成に官民を挙げて協力する「吉野の桜を守る会」が設立されました。地元で桜の保護活動に取り組む吉野山保勝会や金峯山寺などをつくる「さくらAID実行委員会」に奈良県、吉野町、読売新聞大阪本社が加わった4団体で構成しています。



吉野では、約3万本の桜を住民が代々、手入れをしてきました。下草刈り、肥料まきなど作業量は多く、また、急斜面で行うため熟練した技が必要になります。高齢化、若い世代の減少の問題もあり、地元の力のみでは樹林全体の管理が難しくなっています。また、衰退の原因解明が急がれます。2008年、地元の依頼を受けて専門家による調査が始まりました。

同会では、フォーラムやコンサートなどのイベントを通して吉野の桜の現状を広く訴えていきます。また、調査や管理、保護、育成にかかる費用にあてるため「さくら募金」を設置し、支援を呼びかけています。



2008年10月にスタートして以来、全国に支援の輪が広がっています。寄付金はもちろんのこと、心温まるメッセージも続々と寄せられています。「先日亡くなった母が故郷の桜の現状を知り、募金をしたいと言っていた。その遺志を継いで」「一度見ただけです、本当にステキでした。少しでもお役に立てば」「桜は日本の象徴です。大切に守らなければ」「子孫に美しい桜が引き継がれますように」など吉野の桜への深い思いが伝わってきます。



募金は吉野町を通じて桜の保護、育成に使われます。ぜひともご協力をお願いします。

郵便振替口座 00970-8-248200

加入者名 吉野の桜を守る会

手数料 各自でご負担をお願いします。

通信 寄付者名を読売新聞地域版に掲載します（地域によって掲載されないこともあります）。匿名希望の方は、その旨を明記してください。

※所得控除を証明する領収書発行のため、寄付者の住所、氏名などの個人情報を吉野町に提出します。これ以外の目的には使用しません。

問い合わせ 吉野の桜を守る会事務局（読売新聞大阪本社企画事業部内）

TEL06-6366-1848

ホームページ <http://osaka.yomiuri.co.jp/sakura/yoshino/>

「吉野の桜」を 保護するため 支援をお願いします



1300年の歴史を刻む
自然景観を守る――

奈良県吉野町の住民らが約1300年間、大切に守ってきた吉野山のサクラの群生地は、世界遺産に登録されています。しかし、立ち枯れ被害などに見舞われており、このままでは貴重な自然景観が損なわれる恐れがあります。このため、地元団体や奈良県、吉野町、読売新聞大阪本社は、「吉野の桜を守る会」を設立しました。今後、地元で進めていくサクラの保護、育成活動に役立てる資金の一助として、皆様の善意のご協力をお願いします。寄付金は吉野町に全額を贈ります。

吉野の桜を守る会

(事務局＝読売新聞大阪本社事業局内)

TEL:06-6366-1848

00 大阪		払込取扱票									
口座記号番号		金額									
00970-8-248200		千 百 十 万 千 百 十 円									
加入者名	吉野の桜を守る会										
通	料 金										
信	備 考										
欄											
ご依頼人	おところ (郵便番号) _____ おなまえ _____ (電話番号) _____										
日 附 印											

切り取らないで出してください。

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号		金額									
00970-8-248200		千 百 十 万 千 百 十 円									
加入者名	吉野の桜を守る会										
金額	おなまえ										
ご依頼人	(消費税込) _____ 日 附 印 _____										
料 金	円										
備 考											

所得控除を証明する領収書発行のため、寄付者の住所、氏名、電話番号等の個人情報をおなまえを奈良県吉野町に提出します。これ以外の目的には使用しません。
また、お名前を読売新聞に掲載します。匿名希望の方は通信欄にその旨を明記して下さい。

裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)(承認番号大第43320号)
これより下部には何も記入しないでください。

百景を歩く



吉野山

(奈良県)

近鉄・吉野駅(奈良県吉野町)を出て、七曲りと呼ばれる散策路に入った。「下千本」の桜並木を歩いていくと、頭上をロープウェイが横切る。その先は、桜色一色になっていた。

「一目千本」と言われる吉野山の桜。大峰連山の北端まで、全長8キロの尾根筋50秒に約3万本が息づく。標高2000メートルの下千本から、中千本、上千本、そして7500メートルの奥千本まで、目を追うごとに山肌は、薄紅や淡いピンクに染まっていき、見頃は1か月続く。

吉野山と桜の歴史は、7世紀までさかのぼる。山岳宗教である修験道の開祖・役行者が、吉野での苦行の果てに悟った「蔵王権現」の姿を、桜の木に刻んだ。修験道が盛んになり、蔵王権現信仰が広まると、桜は神木となり、参拝者らの献木で植え継がれた。

30分ほどで金峯山寺の参道へ。土産物店や旅館が連なる坂

道から仁王門をくぐると、高さ34メートルの蔵王堂がそびえ立ち、檜皮葺きの屋根の力強さに圧倒された。

吉野山を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」は2004年に世界遺産登録された。すぐに観光客が増え、桜は根元が踏み固め

「一目千本」の桜永遠に



下千本から金峯山寺蔵王堂を望む
(奈良県吉野町) 〓中原純撮影

られて傷みが目立つようになった。

桜並木を守るため吉野町は、06年から観光バス駐車場を予約制にし、1万5000円の協力金を徴収。苗の植栽などに充てている。観光商工課長の山本茂之さん(55)は「吉野の桜が永遠に咲き続けられるよう、観光客にも

力を貸してもらっている」と話す。

住民約60人でつくる「吉野山保勝会」は1916年から、下草刈りや肥料やりなどの活動を続ける。桜のほとんどを占める野生種「シロヤマザクラ」の平均的な「樹齢」は1000〜1200年。だが近年、樹齢30〜40年の若木に立ち枯れが増えているという。

会が依頼した京都大学大学院教授らによる調査結果では、樹勢が衰えた木にコケや菌類が繁殖し、土壌も樹木を腐らせる菌に汚染されている実態がわかってきた。

危機的な状況に、同会渉外部長の水本和幸さん(57)は「戦後、ライフスタイルの変化で手入れが行われなくなり、山が荒廃した。自分たちの子どもの頃は、苗を育てて山に戻していた。同じ手間と情熱をかけないと桜は保てない」と語る。会は約1000粒の種を取って今年2月から育て、5月には苗を山に植える。

「桜を守ることは、日本の心を守る。1300年間、受け継いできた宝を永遠に伝えていきたい」
地元の熱い思いを知り、愛される桜の美しさを、あらためて実感できた。

(奈良支部 元永遠夫)

四季折々心奪われ



江戸時代から続く老舗旅館「佐古家」の女将、大村成子さん(72)

毎年、「何分咲きぐらいですか」との問い合わせを全国から頂きます。下千本から奥千本までだんだん登ってきて、その時々に見頃を迎えるのが吉野山の桜です。世界遺産登録で世界中に知られ、海外からの観光客が増えています。桜が散り終わっても、みずみずしい新緑、燃えるような紅葉など心奪われる光景が続きます。四季によって変わる山の表情を楽しんで下さい。

桜川のサクラの里づくり 桜川日本花の会 代表 磯部 亮

✽常陸国 国指定 名勝「櫻川」・天然記念物「櫻川のサクラ」

桜川は、茨城県の西北 鏡ヶ池を源として 筑波山を廻り、霞ヶ浦に注ぐ 1 級河川です。その上流部、桜川市磯部地区櫻川磯部稲村神社の参道域が、国指定名勝『櫻川』・天然記念物『櫻川のサクラ』の指定地です。また、岩瀬地区を取り囲む周りの山々に多くの山桜が自生しています。

✽櫻川の歴史

「櫻川」・「櫻川のサクラ」が、世に知られるのは、

✽平安期 紀 貫之が、

さくら川という所ありとききて

常よりも 春べになれば さくら川波の花こそ間なくよすらめ （後撰和 歌集）
と歌に詠まれ、歌枕の里として知られ、多くの著名人に、詠まれることになる。

✽室町期 幽玄能の大家 世阿弥 元清により 桜川の地に伝わる物語を題材に謡曲「桜川」が作られ、山桜の景勝地として一層知られてくる。その後、江戸初期までの約150年間、表舞台には、あまり現れず、神社の参道域として御祭神 木花咲耶姫神に見守られ山桜や珍しい桜を補植しながら地域の人達の尽力により桜の馬場として残され、桜を愛でる地域として護られてきた。

✽江戸期 徳川光圀公（水戸黄門）、神社に度々社参し、この地の桜を大変気に入り、桜の苗を持ち帰って水戸偕楽園前の小川に移植 桜川と名付けるほどであった。光圀公は、桜の保護育成に努め、歴代笠間藩主にも保護活動は受け継がれてゆく。

また、歴代徳川将軍により隅田川堤をはじめ、小金井など江戸の各所に移植され

寛永年間（1630） 家光 荒川向島 苗木 数百本

正保年間（1646） 家綱 荒川向島 苗木 数百本

承応二年（1653） 家綱 玉川上水 苗木 三百八十本

享保年間（1730） 吉宗 向島 苗木 数百本

元文二年（1737） 玉川上水 苗木 三百本

寛延三年（1750） 江戸城内大奥 苗木 七十本

嘉永二年（1849） 玉川上水 苗木 三千本 など

桜の名所としてのみならず 吉野山ともに桜の苗木の供給地として江戸各所へ運ばれて行くことになる。

✿明治・大正期

桜川の復興に大きな功績を残す人物は、石倉翠葉（重継）氏である。桜川の歴史的
研究に始まり私財を投じて「桜川事跡考」を出版。貴重な文化遺産として、全国に
発信し、三好 学博士をも動かし、桜川の三度の調査の後、学術的に貴重な固有種
11種を始め匂桜の多く残る山桜の地域として大正13年国の名勝指定を受けるま
でに尽力した。石倉、三好両先生や多くの方々の調査の記録が、現在の桜川の礎と
なっている。

✿昭和期

明治・大正初期あまり世に知らず、ひっそりと咲いていた桜川のサクラも、国指定
と同時に、多くの人々が訪れ、賑わいを見せた。地域の人々も桜の保護育成に努め、
その機運は高まったが、戦中・戦後の混乱期、急激に衰退してゆくことになる。
昭和49年、桜樹の老木化により、貴重な固有種等の保護のために国指定「桜川の
サクラ」として名勝指定地及び周辺の桜樹が、「天然記念物」として保護されるよ
うになる。

✿現在の桜の里の町づくり

桜が、注目されるのは、春開花の時期である。それ以外の季節に目を向けてくれるの
が、多少、紅葉の時期ぐらいである。

平成17年 旧岩瀬町商工会青年部の若い人達が、「サクラサクリプロジェクト」を
つくり桜川の歴史や桜について学び、「さくら」を使った商品で町おこしを考え、「サ
クラサク」をキーワードに合格祈願の町おこしに発展してゆく。桜川の川砂を使った
「すべらない砂守」や「合格さくらうどん」「合格ラーメン」「桜合格ストラップ」等
商品が開発された。

また、桜の保護育成活動にも積極に取り組み、桜川日本花の会を立上げ、桜の開花時
期には、早朝、名勝・天然記念物指定地内の桜の開花調査を行い貴重な記録として残
している。また、地元小学校の6年生の総合学習に於いて平成19年より「桜川のサ
クラ」を中心に環境授業として、歴史・桜の種ひろい・接ぎ木・肥料づくり等の啓蒙
活動を実践している。このような若い世代の力と次の時代を担う子供たちへの活動は
まだ始まったばかりだが、一步一步進んできている

住民の多くは、磯部のサクラ、桜川のサクラとして花見に訪れるが、若い世代は、歴
史的に貴重なサクラであると云う事にあまり関心が無くなってきている。また、観桜
会の開催など啓蒙活動を進めている。

壹千年を超える歴史の中で幾度となく桜川のサクラは、その都度、表舞台に登場し、衰
退を繰り返してきた、この貴重な山桜を、連綿と守り植え伝えてきた地域の人達の心を
次の世代に伝えてゆくことがわれわれの指名であると考えている。



2003.04.16(+7)

一葉



2003.04.20(+11)

牡丹



2003.04.16(+7)

霞桜



2003.04.16(+7)

榊桜



2003.04.06(-3)

雲井桜



2003.04.16(+7)

権王寺権女桜



2003.04.19(+10)

菊桜



2003.04.06(-3)

江戸彼岸



2003.04.16(+7)

佐野桜



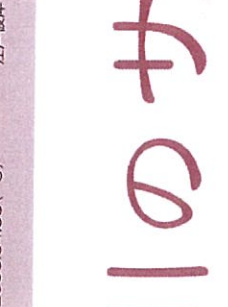
2003.04.16(+7)

公園



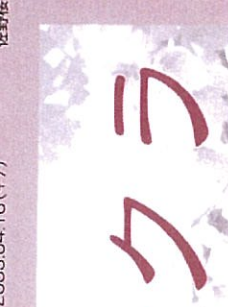
2003.04.20(+11)

兼六園菊桜



2003.04.06(-3)

江戸彼岸



2003.04.16(+7)

佐野桜



2003.04.16(+7)

公園



2003.04.12(+3)

磯部権村神社

名勝 桜川のサクラ

桜川市 商工観光課 ☎0296-55-1111



公園



撮影日 2003.04.09(±0)

染井吉野



2003.04.16(+7)

太白



2003.04.06(-3)

大暮桜



2003.04.12(+3)

長州緑桜



2003.04.19(+10)

天の川



2003.04.12(+3)

白山桜(初重)



2003.04.16(+7)

白山桜(桜川句)



2003.04.12(+3)

薄毛山桜



2003.04.09(±0)

八重紅枝垂



2003.04.16(+7)

公園



2003.04.09(±0)

糸桜



2003.04.12(+3)

大山桜



2003.04.16(+7)

白山桜



2003.04.16(+7)

白山桜(渡氏桜)



2003.04.16(+7)

八重紅虎の尾



2003.04.16(+7)

山桜(赤)



2003.04.06(-3)

十月桜



2003.04.16(+7)

大沢桜



2003.04.16(+7)

白山桜(薄毛桜)



2003.04.16(+7)

白山桜(構句桜)



2003.04.20(+11)

普賢桜



2003.04.16(+7)

枝垂山桜



2003.04.12(+3)

初見桜



2003.04.16(+7)

大島桜



2003.04.16(+7)

白山桜(薄曇)



2003.04.16(+7)

白雪



2003.04.20(+11)

楊貴妃



2003.04.09(±0)

糸桜



2003.04.16(+7)

小南殿



2003.04.19(+9)

大和



2003.04.16(+7)

白山桜(白雪桜)



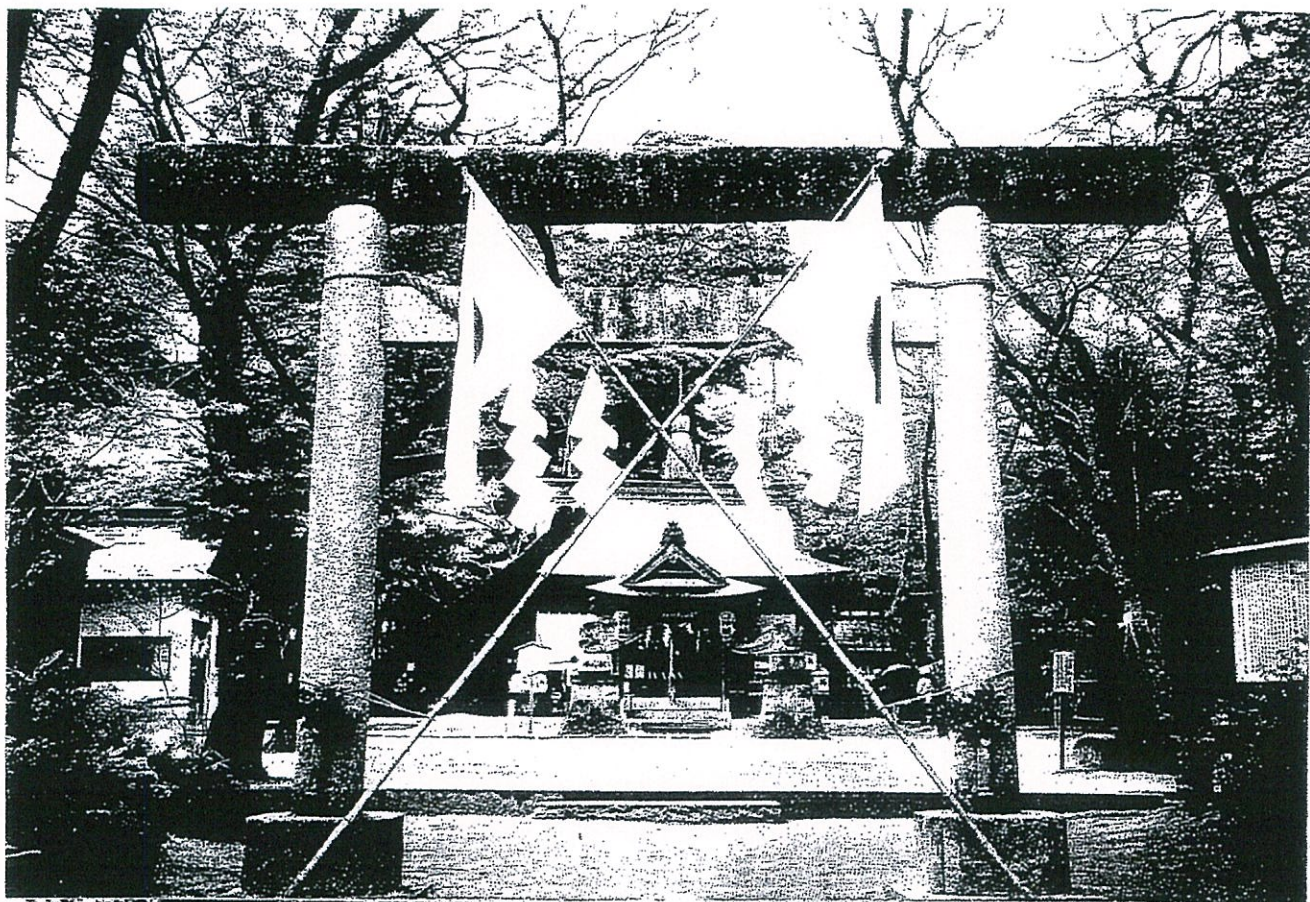
2003.04.19(+10)

白妙



2003.04.20(+11)

鬱金



国指定

名勝 桜川

大正十三年十二月九日指定

桜川の南方丘陵地に磯部神社が鎮座する。

謡曲「桜川」の磯部寺はこの神宮寺のことで、神社の参道をはさんで桜樹が立ち並び古来から磯部の百色桜として、桜の名勝となり吉野に次いで名高かった。

桜は、東北産の山桜に属する白山桜を中心として、花の色、香りなど変種に富み、学術上貴重な品種古木が多い。

水戸藩主徳川光圀は、この地の桜を偕楽園の西南方、見川の地に移植し、ここより流れ出る川を桜川と命名し、桜川は現存している。又、八代將軍徳川吉宗は、元文二年（一七三三）大岡越前守忠相に命じ、吉野及び桜川の桜を武州小金井に移植させた。

平安時代の歌人、紀貫之は桜川を「つねよりも春になれば桜川、波の花こそ、間なくよすらぬ」（徒然草）と詠んだ。

茨城県教育委員会
岩瀬町教育委員会



小金井市のみなさんへ



茨城県桜川市立岩瀬小学校

6 年 総合的な学習の時間

環境グループ

岩瀬小学校の生徒さんより 山桜の実生苗木の贈呈 2011-01-25(火)



メッセージを力強く読み上げる
岩瀬小6年生の阿部真弥君



実生の苗木をカチカチの凍土から
掘り上げる岩瀬小の生徒たち



生徒達の手紙の束を名勝小金井桜の
会 事務局長小沼廣和さんが受け取る



贈呈式 記念写真



子供たちから山桜の苗木贈呈



岩瀬小の生徒に謝意を述べる
名勝 小金井桜の会の小沼さん



岩瀬小校長室にて先生方、磯部宮司、
桜咲く里プロジェクトの方々と懇談



桜川の山桜の苗木贈呈式に立ち会う
桜川磯部稲村神社の磯部亮宮司



桜川磯部稲村神社にて宮司より
説明を受ける



商工会議所にて、2月の小金井市での
物産展の打ち合わせをする

小金井市のみなさんへ

桜川の桜を差

し上げます。この桜は石

部稲村神社の桜をほく

たちが育てた物です。どう

が大七刀に育ててきれいな

花を咲かせてください。

ほくたちの桜で 小金井

桜が復活することを願いま

す。

桜川市立岩瀬小学校 6年阿部 真弥

茨城

水戸総局
〒310-0062
水戸市大町1-2-38
☎ 029-226-0131
fax 029-226-5055
mail mito@asehi.com
日立 ☎ 0294-21-0070
鹿島 ☎ 0299-82-2375
筑西 ☎ 0296-22-2313
土浦 ☎ 029-822-0131
つくば支局
〒305-0031
つくば市吾妻2-8-8
つくばシティビル601号
☎ 029-855-0131
fax 029-851-4606
取手 ☎ 0297-72-2132



小金井市の「桜の会」にヤマザクラの苗木を贈る子どもたち＝桜川市立岩瀬小学校

桜川・岩瀬小 育てたヤマザクラ 名所再生に一役

江戸時代から桜の名所として知られる東京都小金井市の「小金井桜」の再生に、桜川市立岩瀬小学校の子どもたちが育てたヤマザクラが一役買ったことになった。25日、小学校を訪れた保存グループのメンバーらに、30本の苗木が児童から手渡された。

桜川のヤマザクラは古来、「西の吉野、東の桜川」と並び称され、平安歌人が歌を詠み、室町時代には謡曲「桜川」の舞台にもなった。

「小金井桜」は玉川上水に沿って約6kmの桜並木。270年ほど前に、その吉野や桜川のヤマザクラを植えたといわれている。歌川広重や葛飾北斎が錦絵に描き、江戸近郊随一の名所として知られ、1924(大正13)年には国の名勝に指定された。

しかし、昭和40年代以降は玉川上水の通水停止や周辺の都市化により雑木が増加。都や市、市民団体が今年度から10年計画で復活・再生に乗り出し、桜川市にヤマザクラの提供を求めている。

岩瀬小では約30人の環境グループが、桜の歴史などを学び、育てた苗木を市内の公園や予定地に植樹するなどの活動に取り組んでいる。

今回、贈ったのは国の天然記念物に指定されている桜川磯部稲村神社のヤマザクラで、昨年6月、3号ほどの苗を境内の自生地から採取し、学校の花壇で60センチほどに育てた。今後、小金井市内の畑でさらに育て、4、5年後に玉川上水沿いに植えられるという。

この日、小学校を訪れたのは「名勝 小金井桜の会」の小沼広和事務局長ら4人。児童を代表して6年生の阿部真弥君が「大事に育てた大きな花を咲かせてください。桜並木が復活することを願っています」と話すと、小沼さんは「桜川からのサクラと分かるように植えますので、東京にきたときにはぜひ見に来て下さい」とこたえていた。

東京「小金井桜」に苗木30本提供

この日、小学校を訪れたのは「名勝 小金井桜の会」の小沼広和事務局長ら4人。児童を代表して6年生の阿部真弥君が「大事に育てた大きな花を咲かせてください。桜並木が復活することを願っています」と話すと、小沼さんは「桜川からのサクラと分かるように植えますので、東京にきたときにはぜひ見に来て下さい」とこたえていた。

(19) 地域 茨城 新聞 月刊

筑西支社(筑西市、結城市、桜川市)
☎ 0296(22)2439 ファクス(25)3167
下妻支局(下妻市、八千代町)
☎ 0296(44)2551 ファクス(44)2996

桜川市商工会有志

よみがえれ桜並木

桜を活用したまちづくりに取り組んでいる桜川市商工会青年部の有志で構成する「サクラサクプロジェクト」(渡辺雄司代表)は25日、東京・小金井市の「名勝 小金井桜の会」に山桜の苗木30本を寄贈した。

桜の会は玉川上水沿いの桜並木を復活させようと、10年がかりで上水沿いに計1200本の山桜を植樹する計画を進めている。寄贈された苗木は桜川磯部稲村神社の境内にある山桜を種から育てた。岩瀬小学校(足立区明和)の児童30人が総合学習を利用し、同プロジェクトや同神社の磯部亮宮司の指導を受けながら1年間育ててきた。

校庭で行われた贈呈式には、同プロジェクトや学校関係者、桜の会など約40人が参加。児童3人が約50センチに育った苗木を手渡した。

児童を代表して6年生の安部真弥さんが「大切に育て、

東京の団体に苗木寄贈

育てた山桜の苗木を小金井桜の会に手渡す児童たち＝桜川市鉄田

きれいな花を咲かせてください」と要望し、桜の会の小沼広和事務局長は「小さな苗木を育ててくれてありがとう。きれいな花を見に来てほしい」と感謝した。

寄贈された苗木は背丈ほどに育てた後、並木に移植する。同プロジェクトは今後数年間で苗木約150本を寄贈する予定だ。(荒井秋男)



「桜川のサクラ」

一千年の歴史を誇る

桜の名所

桜川(桜川市岩瀬地区)は、古来より「西の吉野、東の桜川」と並び称される桜の名所でした。

平安時代の歌聖 紀貫之が歌に詠み、室町時代には幽玄能の大家世阿弥作謡曲「桜川」の舞台にもなっています。

江戸時代には歴代将軍により、隅田川堤はじめ江戸各所に移植されました。特に水戸光圀は、櫻川磯部稲村神社を度々社参、この地のサクラを大変気に入って、持ち帰って借楽園前の小川に移植し、「桜川」と名付けるほどでした。

明治時代には旧岩瀬町出身の俳人であり文学者石倉翠葉氏がサクラの衰退を嘆き「櫻川事蹟考」を出版。

これが礎となって、大正13年国定「名勝」に、昭和49年には国の「天然記念物」に指定されています。

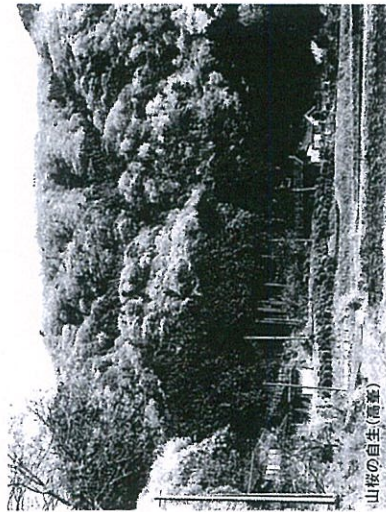
「桜川のサクラ」が見られるのは…

磯部桜川公園、櫻川磯部稲村神社とその周辺です。

また、桜川上流の高峰山や雨巻山、富谷山も自生の山桜が見事です。(裏面地図参照)

山桜の見頃は…

早咲きのものもありますが、殆どがソメイヨシノよりやや遅れて咲きます。例年4月中旬頃見頃を迎えます。



山桜の自生(高峯)



自生の山桜(高峯山)

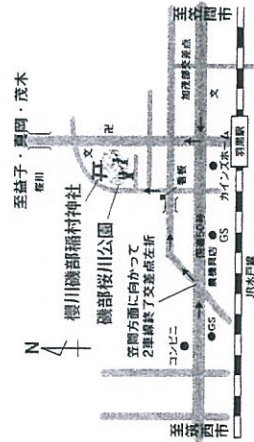


櫻川磯部稲村神社

現在の磯部桜川公園

櫻花園跡にある「桜川のサクラ」

「桜川のサクラ」初重桜



電車でお越しの方：JR水戸線羽黒駅下車、タクシーで5分お車でお越しの方
水戸方面より：国道50号線カインズホーム岩瀬店次の信号(「桜川のサクラ」の看板有り)を右折
小川方面より：国道50号線2車線道終了後最初の交差点を斜め方向に左折

サクラの豆知識

日本に自生する桜(自生種)はたった9種類(山桜・大山桜・霞桜・江戸彼岸・大島桜・豆桜・丁子桜・高嶺桜・深山桜)しかありません。中国には30種類以上あると言われるから、これと比べるに少なく感じますが、実はソメイヨシノ(大島桜×江戸彼岸)に代表される園芸品種の桜の数は300とも400とも言われ、ダントツ世界一なのです。

現在日本の桜の8割はソメイヨシノと言われていますが、このソメイヨシノが生まれる江戸末期までは、サクラと言えば自生種の「山桜」のことを指していました。

自生種の桜は一本一本遺伝子が異なるため、花の色・形・開花時期も異なりますが、ソメイヨシノはたった1本の木から接ぎ木で増やされてきた、言ってみれば「クローン」のため、同じ気象条件の下ではほぼ同時に花を咲かせます。これを利用して、日本ではソメイヨシノを基準にした「サクラ前線」が生まれたというわけです。

これだけ日本全土に広がったソメイヨシノですが、成長の早さ故か60年と言われる短い寿命から、近年各地で枯死するものが目立ってきました。補植にまたソメイヨシノを使うのか、それとも他の品種を使うのか…

画一的なサクラの風景から多様性を求めて、流れは後者にあるようです。

ところで、日本の国花が「山桜」だと知っていましたか？

実は「桜川のサクラ」も同じ山桜なのです。

ソメイヨシノの下での賑やかな「花見」も良いですが、たまには万葉の昔から歌に詠まれてきたこの山桜の歴史や情緒を感じとってみる…「観桜」という気持ちでサクラを見てみるのも素敵では？

天然記念物「桜川のサクラ」指定 11 種

調査・記号 三好 孝 博士
資料提供 櫻川磯部稲村神社
写真 佐々木 孝 氏
制作 サクラサクラプロジェクト



桜川



梅句



初重桜



初見桜



大和桜



源氏桜



白雲桜



薄毛桜



青桜



青毛桜



梅鉢桜

『桜川市のサクラ』紹介

① 富谷山ふれあい公園の桜

桜川市富谷の富谷山小山寺（富谷観音）のすぐそばにある公園です。高台であるため市内を一望することができ、天気の良い日には富士山も望むことができます。その眺望から国の「関東富士見100景」に選ばれています。公園内には八重桜が植樹され、春には市民の憩いの場となっています。

② 上野沼の桜

上野沼の湖畔にあるやすらぎの里は、四季を通じて水辺の自然とふれあえる憩いの場所です。園内には木のぬくもりの伝わるケビンをはじめ、ゆったりとしたオートキャンプ場もあり、家族や友人と楽しいひとときを過ごすことができます。また、多目的運動広場やテニスコートもあり、子ども会や職場のレクリエーションに最適です。水面に映える湖畔沿いの桜並木が見事です。

③ 薬王寺周辺の桜

薬王寺のある桜川市青木地区では、江戸末期に二宮尊徳の「青木仕法」により桜川に堰が築かれました。薬王寺の山門には、大正時代の大改修により撤去された青木堰の用材の一部が用いられたなど、尊徳の偉業を現代に伝えています。お寺の脇にある染井吉野や陽光を楽しむことができ、周辺の里山では山桜も楽しめます。最近では秋のモミジの紅葉も人気となっています。

④ りんりんロードの桜

つくばりんりんロードは、旧関東鉄道筑波線の鉄道敷を利用して整備された土浦と岩瀬を結ぶ全長40kmのサイクリングロードです。旧駅敷地を利用した休憩所には染井吉野の古木があり、春には桜の花を楽しめ、夏には木陰がハイキングやサイクリングを楽しむ人々にも親しまれています。

⑤ みかげスポーツ公園

伝正寺の近くにある「みかげスポーツ公園」は、全天候型のテニスコートや芝のゲートボール場があり、子どもからお年寄りまでスポーツに親しむことができます。すぐそばに「レストハウスみかげ」があり、喫茶や食事を楽しむことができます。テニスコートを囲むように植えられた染井吉野が見事です。

⑥ つくし湖の桜

筑波山の麓にある「つくし湖」は、平成4年に完成した霞ヶ浦用水の人造湖です。湖面を取り囲むように桜が植樹され、桜と筑波山の眺望を楽しめる新しい名所となっています。

⑦、⑧ 磯部稲村神社周辺・磯部桜川公園

○国指定文化財・名勝「桜川」 / 大正13年12月9日指定桜川市磯部の磯部稲村神社の参道をささんで、両側約1kmに及んで桜の並木があります。東北産の品種白山桜を中心として、花の色、香りなどに富み、学術的に貴重な存在です。現在、巨樹は殆んど枯死し、染井吉野、山桜などを補植したものです。後撰集には紀貫之の「常よりも春辺になれば桜川 波の花こそ間なく寄すらめ」があり、その他多くの歌に詠まれています。また、世阿弥元清の作である謡曲「桜川」は、この地を題材にしたものです。桜川市山口の鏡ヶ池に源を発する桜川は、台地の北麓から西へ流れ、筑波を経て霞ヶ浦口にそそぐ川です。

○国指定文化財・天然記念物「桜川のサクラ」 / 昭和49年7月16日指定磯部稲村神社の参道の両側約1kmの外、市有地約5,500㎡内の桜、約500本に及ぶ白山桜の群で、桜川、榎、樺、梅鉢桜、白雲桜、薄毛桜、初見桜、初重桜、源氏桜、大和桜、青毛桜、青桜の11種が品種指定されています。従来の名勝にあわせて、これら品種の保存を図るため天然記念物に指定されました。磯部稲村神社は、その参道や神社が座す丘の斜面に多くの山桜が見られ、桜の名所として広く知られてきました。この山桜は東北地方に産する白山桜で、淡紅色の花ばかりでなく芽ぶき時の赤芽も見事です。また、隣接する岩瀬東中学校の山桜も見事です。

⑨ 雨引山の桜

雨引山の中腹に位置する雨引観音は、「一に安産 二に子育て、三に桜の樂法寺」と称され、桜の名所としても知られています。境内には染井吉野、河津桜など多種の桜が植えられ、また周辺には山桜が多数自生しています。開花時期が異なるため長い期間桜花を楽しむことができます。6月上旬から7月上旬にはアジサイも見ごろとなります。

⑩ 里山の山桜（雨菴山周辺、高峯、御嶽山、雨引山、羽田山周辺）

桜川の山々には、山桜が多数自生しています。山桜は染井吉野と比べ開花時期も若干遅く、桜花の淡紅色と赤芽が木々のえもいえない色の芽ぶきの時期と重なり、パッチワークのような眺望を楽しむことができます。また、古来より桜の名所として知られていたことから、江戸時代には歴代將軍により隅田川堤、玉川上水などに植樹されてきました。水戸市の桜川は、かの水戸公園が当地の桜を気に入り、桜木を数百年移植したことを機に桜川としたものと伝えられています。

桜慈しむ「展勝地」

北上さくらの会 会長 伊藤 彬

今から 90 年前の大正 10 年、岩手県北上市の桜の名所「展勝地」が誕生しました。

「吉野山」や「桜川」、「小金井」と比較すると、まだまだ若い桜の名所ではありますが、憩いの場として、心の和む、癒される場として、広く市民に親しまれている公園です。

「展勝地」の生みの親は、地元の沢藤幸治さん。愛称を沢幸さんといい、後に黒沢尻町長や県会議員を務めた方です。

「展勝地」という名称は、沢幸さんが計画実現のための事業団体名を親友の風見章代議士に、相談したところ「展勝会」（当初は天勝会とも）と名付け、そこから「展勝地」と呼びならしたとされます。意味は、この地が「展望のきいた景勝地」からきているとのこと。

大正 9 年、「新たな時代に対応するためには、物質の充実だけではなく、心を豊かに充実させる風景を創造していくことが大切」だとし、この構想実現のため「和賀展勝会」を設立しました。この構想には、原敬総理大臣をはじめとする代議士や県知事、各界名士など数多くの賛同が得られ、展勝地の実現に向かうことになりました。

大正 10 年、和賀展勝会と立花青年団、地域の住民たちが、井下清東京市技師の指導で植栽を行いました。このときは、ソメイヨシノ 600 本、八重桜 1300 本（うち苗 1000 本）、小金井山桜 1200 本（同 1000 本）、ツツジ 300 本などが展勝地、黒沢尻町や立花村の神社仏閣に植えられました。開園前の 4 月、北上川沿いに植えられた一部のソメイヨシノが洪水のために流失し、10 年木を補植しています。

同年 5 月 21 日、小金井山桜が植えられている展勝地・陣ヶ丘で盛大に開園の式典が催されました。

その後、三好学東京帝大教授と井下清東京市技師によって「和賀展勝地計画案」が作られ、我が国随一の桜の名所を目指して継続的に整備されてきました。

先人たちが、市民の心のよりどころとして展勝地を慈しみ、大切にしてきたからこそ、現在も風光明美な景観は残されています。

北上さくらの会は、この展勝の精神を受け継ぎ、次代へ伝えていくことを目的として昭和 56 年に設立しました。展勝地には、1 万本ともいわれる桜が咲いています。中には 90 歳を超えるソメイヨシノも一所懸命に花を咲かせています。わたしたち会では、何とか桜たちを長生きさせようと、手入れを行うほかにさまざまな延命対策を市と協働で実施しています。

また、市では桜並木と隣接して新たな展勝地公園整備事業計画し、その実現に向けて現在進めているところです。

北上市と小金井市との交流は、十数年たちました。

小金井桜の会と北上さくらの会が交流をした際、玉川上水の桜が年々数が減っていることを知りました。わたしたちは、小金井山桜の歴史と命を継いでいくために、展勝地で育った小金井山桜の苗を本家にお返ししようということになったのです。

展勝地開園 80 周年を向かえた平成 13 年、記念式典の席上で小金井市長に苗木の目録を贈り、桜の里帰りを約束しました。

平成 19 年 11 月 4 日、5 メートルを超す高さに育った小金井山桜の苗木 11 本を贈り、86 年ぶりの里帰りが実現しました。

去年は、名勝 小金井桜の会役員の皆さんが展勝地を訪れ、北上市の児童たちと一緒に、小金井山桜の種子拾いを行いました。新たな命が芽吹くのが楽しみになりました。

展勝地の本家は小金井で、小金井の本家は吉野と桜川。

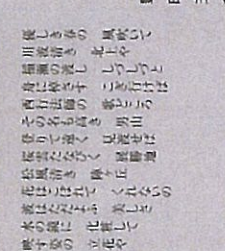
この 4 つの地域は、桜で結ばれた縁でここに集っておりますが、これは長いながい歴史と、先人たちの思いが繋がっているのだと感じております。

展勝地は「日本さくらの名所 100 選」に選ばれるなど、今では日本有数の桜の名所となりました。「みちのく三大桜名所」として、弘前、角館と一緒に PR をしてきたことで、JR 東日本の協力により、毎年各地の駅構内には展勝地のポスターも張られるようになりました。

知名度が上がるほど、わたしたち北上さくらの会の活動は、重要になってきます。それは、市民と行政と桜愛でる心を共有しながら、未来へ進めていくことが大切だと考えています。

市民みんなが待ち望んでいる展勝地の桜が咲き誇る春。

桜前線が北上市に到着するまで、あと 2 カ月です。



豐田 玉枝

[illegible]

「共存共榮」昭和六年第六期

北上にて;小金井桜のさくらんぼ種拾い

業斤

聞

第三種郵便物認可

「小金井桜」復活へ恩返し

大正時代 苗木贈られた岩手の展勝地

桜の名所として知られる岩手県北上市立公園展勝地(てんしょうち)に咲く「小金井桜」の種子が10日採取され、小金井市の桜の会に寄贈された。展勝地は、大正時代の開園時に小金井市から桜が贈られ、今では全国有数の名所になった。ところが本家の桜は衰えが目立ち、その復活に北上の子孫が役立てられる。

種子の採取は「北上さくら会」が地元の開園小学校に呼びかけた。

児童、父母ら約50人が参加し、桜の根元に落ちた種子を拾い、展勝地を訪れた「名勝小金井桜の会」の会長石田精一さん(80)に手渡した。桜の会では種子を持ち帰って畑にまき、苗木を育てて植樹する。

採取に先立って「北上さくら会」事務局長の軽石昇さん(63)が「恩返しができてうれしい。多くの小学校に参加していただき、これから毎年続けたい」とあいさつし、石田さんが「5年から7年たてば植樹できるまでに育つだろう。10年たてば花が咲く。ぜひ、見に来てほしい」と応えた。

展勝地は1921(大正10)年開園の際、1200本の小金井桜の苗木が贈られ、今も80本ほどが美しい花を咲かせている。

小学生ら協力、種子採取



一方、小金井桜は江戸時代に玉川上水の両岸に植えられた。24年に国の名勝に指定さ

(岩手県北上支局・但木汎)

「小金井桜」の根元に落ちた種子を拾う子どもたち。岩手県北上市立花の市立公園展勝地

れたが、排ガスやケヤキの雑木に追われ、枯死が目立っている。
北上市では、本家の危機に07年11月には、展勝地の小金井桜の苗木11本を86年ぶりに「里帰り」させていた。



大正期、岩手・北上市に移植

『小金井桜』里帰りへ



「明治期写真帖」に残る小金井橋の様子（小金井市教委「名勝小金井桜絵巻」から）

大正期に岩手県北上市に移植された「小金井桜」が四日、小金井市に里帰る。故郷の桜並木は、雑木が生い茂って毎年十本程度枯れており、再生のため、北上市から苗木が寄贈されることになった。保全運動に取り組む市民らは「景観を取り戻し、次世代に伝えたい」と期待している。

（北川成史）



展勝地公園の小金井桜（北上さくらの会提供、2000年撮影）

小金井桜は、小金井橋（小金井市）を中心とした玉川上水両岸約六キロの桜並木。約二百七十年前、江戸幕府の命で、奈良県の吉野山などから取り寄せた山桜の苗木を植えたのが始まりとされる。江戸から明治期にかけて、桜の名所として知られたり、一九二四（大正十三）年、国の名勝に指定された。

小金井桜が北上市に移植されたのは、二二（大正十）年。同年に開園した市立展勝地公園に約二百本が植えられ、今も約八十本が花を咲かせ、訪れる人の目を惹きつけている。

一方、本家の小金井桜は戦後、玉川上水の通水停止や並行する五日市街道の拡幅など

4日、再生のため寄贈

で環境が悪化し、かつての景観は失われた。

北上市からの小金井桜の贈呈は、展勝地公園開園八十周年の二〇〇一年に決定。同市で育てられた苗木は現在、高さ三メートルを超えるまでに成長している。

四日は、伊藤彬・北上市長が小金井市を訪れ、小金井桜の苗木十本を寄贈することともに、小金井橋付近などに植樹する。両市民の交流会も予定されている。

小金井市で保全活動に取り組んできた「名勝小金井桜の会」の石田精一（副会長）も「北上の方々のおかげで、里帰りが実現できた。大事に育て、きれいな花を咲かせたい」。

「北上さくらの会」の榎石昇事務局長は「里帰りにては、命をつなぐ尊さを感じる。今後、両市民で深く、豊かな交流を続けていきたい」と話している。



小金井桜86年ぶり帰郷

東北屈指の桜の名所、岩手県北上市立展勝地公園の「小金井桜」の苗木が小金井市に贈られ、4日、両市長が参加して記念植樹が行われた。大正時代に小金井から贈られた桜の手孫で、衰えが目立つ「本家」を救うための86年ぶりの帰郷。桜並木の保存を願う市民は「名勝復活へのきっかけ」と期待している。

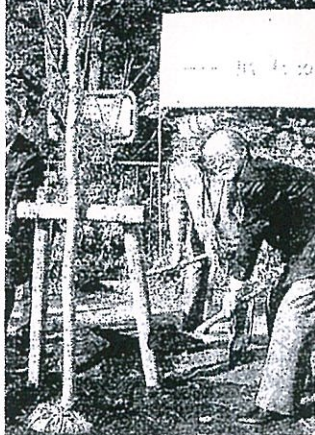
(比留間直和)

記念植樹があったのは、玉川上水の小金井橋近くの緑道。桜の調査・保存活動を続ける市民団体「名勝小金井桜の会」(大久保慎七会長)と小金井市が共催した。

小金井桜は江戸時代中期の1737(元文2)年、奈良・吉野などから取り寄せたヤマザクラを玉川上水の両岸約6キロに植えたのが始まりだ。1924(大正13)年には国の名勝にも指定されたが、近年、ケヤキや雑木の繁茂による日照不足や排ガスなどで毎年10本前後が枯れている。都教育庁によれば、昨年夏時点で枯れずに残っていたのは900本余りという。

一方の北上市。1921(大正10)年の展勝地開園の際、計1200本の小金井桜と苗木が小金井市から贈られ、今も約80本の小金井桜が毎年美しい花を咲かせる。

「本家」の窮状を救うべく、01年の開園80年記念式典で「北上さくら」の会(会長の伊藤彬・北上市長が、稲葉孝彦・小金井市長に苗木の目録を贈



北上市立展勝地公園で毎年しく咲く小金井桜(北上さらの会提供) 帰郷した小井桜を植える。(左から)葉孝彦・小金井市長、「名小金井桜の会」の大久保慎七会長、伊藤彬・北上市長、日、小金井市桜町1丁目

伊藤・北上市長も「86年前の御意に込めることができ、ほっとしている。ぜひ大切に育ててほしい」と応じた。植樹のあと、伊藤・北上市長は「苗木は100本以上用意しており、要請があればまた提供したい。北上市内でも様々な場所に植えていきたい」と、小金井桜を通じて交流をさらに進める考えを示した。

その後、苗木の準備が整ったことから「帰郷」が実現した。今回、北上市から贈られた桜は11本。この日植樹された5本のほか、予備として3本が市内の造園業者に預けられ、1本が市立小金井保育園に植えられた。高さ4.5メートルあり、「来年、いくつかは花をつけるのでは」(造園業者)という。

「名勝・本家救え」岩手から苗木11本

展勝地の今後の展望と日本各地の花の名所の取り組みについて



財団法人日本花の会 主任研究員 和田 博幸

桜の名所は地域の文化の現れ

3月7日の日本経済新聞の別刷り、日経プラスワンの何でもランキングで「歩いて楽しい桜並木」というランキングが発表になりました。そこで北上展勝地は、角館の武家屋敷通りに次いで堂々2位にランキングされました。造幣局桜の通り抜けや千鳥ヶ淵緑道を抑えての2位ですから、これは大いに自慢できることです。私は2月4日に北上市の皆さんの前で桜の話とさせていただいた



こともあり、自分のこのように嬉しく思っています。このランキングは桜並木の本数や距離だけで選んだ訳ではないようです。桜並木の質を問うたのだと思います。桜並木の質は桜の名所の質に通じます。北上展勝地は桜の名所地としても質が高く魅力的だと評価されたといつてもいいでしょう。では、桜の名所地の質とは何でしょうか。桜が健全に育っているというのは当然なことですが、この他に桜に歴史や風格があるか、周りの景観と桜がうまく調和している風景になっているか、花見客を快く迎えているか、地域住民と桜がよい関係にあるかなど、これらのことが総合的に評価されて、全般的に良ければ質が

高く魅力的な桜の名所といえます。桜の名所は地域の文化の表れだと思っています。質の高い桜の名所地は文化的にも高い水準にあると私は信じています。

日本人と桜との関わり

桜といえばお花見です。お花見は春の風物詩で、大勢の方が桜の下へ春を満喫するために桜の名所地に繰り出します。お花見の起源をたどると、大きく二つの流れがあることが見えてきます。ひとつは奈良時代からある貴族や武士などの特権階級のお花見です。中国から遣唐使や遣唐使が伝えられた梅を見る文化は、日本でも定着しましたが、遣唐使が廃止された後に、梅を愛でるから桜を愛でる文化に変わりました。平安時代には既に貴族の館に桜が植えられ、詩歌や絵に桜に対する思いを残しました。以来、鎌倉、室町、戦国時代、安土桃山時代、江戸時代の

前期までは、お花見は権力を見せびらかす象徴として、特権階級の間で行われていました。その代表的なものは、豊臣秀吉が行った吉野山と京都の醍醐での盛大な花見です。大勢の家来や武将たちを引き連れて行われました。

もうひとつのお花見の流れは、農民の田んぼに稲の神様を迎える儀式としてのお花見です。冬の間に山に帰っていた田んぼの神様は、春になって再び田んぼに戻って来ますが、田んぼに帰ってきたことを知らせるのが桜の花です。だから農民は帰ってきた稲の神様の機嫌を損ねないように、酒肴を揃えてお迎えしました。そして神様と一緒に田んぼに帰ってきたことをお花見しました。これが農民のお花見です。

これら二つのお花見が一緒に花見になったのは江戸時代です。そのきっかけは、1600年の関ヶ原の戦いで徳川吉宗が、吉野山に江戸の町郊外に何か所か桜を植えて桜の名所地をつくり、町民に開放しました。御殿山、飛鳥山、向島、隅田川堤、小金井堤がそうです。江戸中期から末期にかけての町民にとっては、お花見はまさに晴れの場でした。落語の「長屋の花見」では、当

時の花見の様子が見えとても楽しい嘶です。



晴れの場の演出

時代は変わりましたが、花見の人氣はいつに衰えていません。むしろ手軽な春の行楽としてますます盛んになってきたように思います。その背景には団塊の世代が定年を迎え、時間的に余裕のある団塊の世代がお花見に繰り出していることです。団塊の世代の桜の名所に対するニーズは多様です。彼らは夫婦で一緒にのんびりと花見の時を過ごす、美しい桜の風景をカメラに収める、地方の桜とグルメと温泉を楽しむ、非日常を桜の名所に求めているので



す。これらの多様なニーズに応えるには、名所地もそれなりの仕掛けを用意して彼らを迎え入れなければなりません。私は観光の専門家ではないので、誘客をどう図るかということとはよく分かりませんが、桜の名所地の演出であれば今迄の経験を書くことが出来ます。

桜の名所地の演出としては、まず「一斉に花が咲く」ことが条件の一つです。それにはソメイヨシノはうってつけです。それは同一クロンだからです。ソメイヨシノの花時期以外に桜を一斉に咲かせることも出来ます。桜にはいろいろな品種がありますので、同一開花

期の品種を揃えるわけです。こうすればソメイヨシノに連続して3週間程度は桜を楽しむことが出来ます。しかも絢爛豪華な八重咲きのサトザクラ類は、花色や花の形にバラエティさがあり、その見事な花を見客に楽しんでもらうことが出来ます。さらに、これらに草花や花木を組み合わせれば、彩り豊かな花の名所地をつくることも可能です。草花や花木類は桜の開花に合わせても良いし、別な時期に咲くものでも良いと思います。桜と同時期であればハナナやスイセン、ユキヤナギ、ヤマブキなどが挙げられます。違う時期であればアジサイやスイフヨウ、ヒガンバナなどがいいでしょう。他にも該当するものがいくつかあります。花を集中させることがポイントです。しかし、桜を中心にして花いっぱいにすることはできません。花いっぱいにはすぐに飽きられます。桜の名所の演出にはメリハリが肝心です。メリハリをどうつけるかはじっくり考えなければならず、専門的な知識と経験が必要です。

市民で守り、つくる桜の名所

桜の名所は造園的なデザインでその下地はできます。いくら下地は良くても運営がおろそかでは高いレベルの質を求めている花見客を満足させることはできません。健全な桜に育てるのも役所任せではだめです。北上展勝地では北上桜の会などが桜をしっかりと観察して、市役所と協力して桜や環境の変化に対応してきたからこそ、今あるようないい風景の名所地になったのだと思います。

今、自分の所の桜は自分たちで守る。といった活動が盛んになりつつあります。東京都内では10近い団体が桜を守る活動をしています。第二次世界大戦前後に植えられた桜は樹齢60年から80年を迎えようとしています。地域とともに育ってきた桜はすでに老木になっていきます。これらの桜に恩返ししようという市民グループが桜守です。

いくつかの桜守の人たちと話をすると、機会があり、活動の目的や内容、苦労などを伺いました。活動の目的を突き詰めてみると、それはまさに桜の保全を通じてまちづくりでした。桜のいい風景を次



ことにもなり、個人の生きがいづくりに役立ちます。個人の社会参加は今後の市民活動に欠かすことはできません。

まちづくりのツールとして

こうやって考えると、桜はまちづくりの良きツールとなります。早くからこのようにまちづくりに取り組んでいる北上展勝地は、理想的な桜の名所づくり、まちづくりの先進地といえるでしょう。しかし、まちづくりは余力ばかりでなく、工夫も必要だと思います。それをひとつひとつ積み上げることが大切です。

桜を通じて市民一人一人の努力が、自分たちの幸せを生むことに繋がります。展勝地は北上市のアイデンティティでもあり、市民の心のよりどころです。今回協議会ができたことで、更なる進化を期待しています。



名勝 小金井桜復活までの歩み

名勝 小金井桜の会 石田精一

1. はじめに

多摩川上流から江戸市中に飲料水を送るために開設された玉川上水の中流部に架かる小金井橋を中心に上・下流約6 kmの両岸に植えられたヤマザクラの並木は関東随一の桜の名所として広く知られ、大正12年には吉野山、桜川とともに国の名勝に指定された。

しかし、戦中・戦後の混乱期の間に著しく衰退し、その後地元の観光協会、ロータリークラブなどの努力により手入れや補植が進められてきたが、昭和40年、淀橋浄水場の廃止により上流部の一部を除いて、玉川上水の上水路としての役割が終了した結果、従来行われていた水路内の刈り払いが中止され、放置されたケヤキなどの高木が野放図に繁茂してサクラの生育にとって過酷な環境となった。サクラは日光を求めて片木状となり、腐朽菌の蔓延による枯損・倒木が発生し、加えて隣接する都道・市道を通行する大型車両の接触・衝突による倒木もあって、近年は毎年、年間十数本の桜が失われている。

2. 江戸時代

小金井桜は元文2年(1737)川崎平右衛門定孝が幕府の命により小金井橋を中心とする玉川上水両岸に桜を植えたと伝えられている。しばらくの間は広く知られることもなかったが、約50年を経て、寛政9年(1797)、大久保狭南の「武埜八景」に小金井の桜が取り上げられ、多くの文人たちによる紀行文や絵図「金井橋桜標」などが刊行されるようになると次第に桜の名所として注目されるようになった。

小金井桜の手入れは持場が定められ、上水周辺の農民たちにより、雑木の刈り払いや桜の補植などが行われていた。

嘉永3年(1850)代官大熊善太郎が上水の桜の衰えを心配し近隣の村々に触れを回して桜の補植を訴えた。これに応じて田無村の名主下田半兵衛らにより大規模な補植が行われたことが石碑に記されて現存し、また多くの文書も残されている。

3. 明治・大正時代

明治に入って、多摩郡を管轄していた神奈川県は玉川上水縁の桜樹を禁伐林(官林)として保護しようとし、一方水路を管理する東京府は水道付属地としての扱いを望み「永世勝地の声誉を損せぬよう厚く注意いたしたく」とした。明治13年玉川上水縁の桜樹はその敷地とともに東京府に移管された。

植物学者で我が国の桜花の研究に造詣が深かった三好博士は、明治45年、当時の東京市長尾崎幸雄に小金井桜の保存を建議し東京市会は「小金井桜保護に関する建

議」を議決した。大正8年、天然記念物保存法の制定により博士は全国各地の桜の名木・名所の調査に当たり、大正13年、小金井は吉野山・桜川と共に国の名勝に指定された。また博士は昭和2年、「小金井桜花図説」第一輯を、翌年第二輯を刊行した。

一方、大正4年地元4村の有志による小金井保桜会が発足。大正9年には小金井保桜会と桜の会共同経営の苗圃でヤマザクラの苗木の栽培が開始された。

昭和の初期まで市内・近郊から多数の人々が花見のために小金井を訪れた。

4. 戦後

昭和25年文化財保護法が制定され名勝小金井桜の指定は継続された。しかし戦中・戦後の混乱期を経て、桜の老木化が進み、周辺環境の悪化により名勝としての小金井桜の維持は次第に難しくなっていた。

昭和29年には隣接する五日市街道の拡幅工事が始まり、工事に支障となる桜は伐採され、出来上がった道路は桜の根本近くにまで迫った。

昭和40年淀橋浄水場が廃止され、昭和46年頃には中流部以下の水流は完全に停止した。その結果上水路内部の管理は行われなくなった。そして昭和61年に、東京都が清流復活事業で玉川上水に処理水の放流を開始するまで十数年にわたって上水の水路は空堀状態となった。

平成4年、東京都教育委員会は今後の適切な保全対策を立てるための基礎資料を得ることを目的として玉川上水の現況調査を実施し、平成7年、「名勝小金井（サクラ）現況調査報告書」を刊行した。

平成8年、名勝小金井桜の会の前身、名勝！小金井桜に親しむ会が発足し、小金井桜を次代につなぐための活動を開始した。

5. 史跡玉川上水整備活用計画

名勝小金井桜の管理者である東京都は平成11年に玉川上水の開渠部分を歴史環境保全地区に指定した、この中で保全の方針として武蔵野の面影を残す雑木林、名勝小金井桜、歴史的土木構造物である素掘りの水路を可能な限り現況を損なうことなく後世に伝えるとしている、そして平成15年8月、玉川上水は国の史跡に指定された。国の史跡指定に伴い、東京都水道局は平成19年8月、「史跡玉川上水保存管理計画」を策定し、平成21年8月、この保存管理計画に基づく具体的な施策「史跡玉川上水整備活用計画」が策定された。この計画の期間は平成22年から平成31年までの10年である。

この計画により東京都は玉川上水の貴重な土木施設・遺構を適切に保存して後世に継承し、あわせて名勝小金井桜の復活を図ることを目指し、地元の自治体は市民団体と協働して小金井桜復活のためのヤマザクラの苗木の供給に当たることになっている。

平成22年この計画の初年度の工事が150mの区間で開始され、桜の苗木26本の補植が行われる。永年の夢だった名勝小金井桜復活への第一歩である。

平成21年1月17日

玉川上水整備活用計画策定に関する委員会

会 長 篠 原 修 様

「玉川上水整備活用計画策定に関する委員会」で協議中の
「名勝 小金井桜」に関する事項に対する要望について

名勝 小金井桜の会

会 長 大久保 慎七

「玉川上水整備活用計画策定に関する委員会」において今年3月に、「名勝 小金井(サクラ)」の再生に向けての具体的な整備計画の策定内容について言及した「整備活用計画」が提言として提出されると聞き及んでいます。

私たちは、大正13年12月9日付で「史跡名勝天然記念物保存法」に基づき名勝に指定された、歴史的文化遺産である小金井サクラのヤマザクラ並木を次代に適切に継承するため、その提言に盛り込まれる名勝小金井桜の再生に向けての具体的な整備計画の記述は、260余年の歴史を誇るヤマザクラ並木を再び名勝と呼ばれるにふさわしい景観を取り戻せるか否かの重要な提言として位置づけられるものであると認識しています。

以下、私たちのこれまでの活動の経験から名勝「小金井(サクラ)」の再生に向けての具体的事項を指摘すると共にその内容が提言に盛り込まれるよう要望します。

- 1) 名勝小金井桜は高木類による被圧、根元の踏み固め、自動車との接触被害、病害虫による被害等の各種の原因により樹勢の衰弱が急速に進行しつつあります。

現在でも毎年10本以上の桜樹が枯死又は伐採により減少していますが、最近の腐朽菌の発生状況の調査結果からすると、今後さらに枯死樹の発生が加速されるのではないかと危惧されます。したがって早急に樹勢に影響を与える要因を除去する対策を講じる内容を提言に盛り込むことを要望します。

- 2) 名勝指定区間のヤマザクラ並木は名勝指定当時の景観とは程遠い状況で、まったく名勝とは言えない現状となっています。小金井桜の歴史を知らず、長年この現状を見慣れてきた人たちにとっては、かつてこの場所が全国に知られたサクラの名所であった事を想像することも難しいと思われます。例え全域でなく一部の区間であっても、芝地に桜の巨木が立ち並んでいた往時の面影を偲ばせる情景を再現することができれば、市民の関心を大いに高めることができるでしょう。

また同時に桜樹を被陰から開放することが、いかに小金井桜の保全に有効であるかが立証されるものと期待しております。

以上からも重点整備地区におけるモデル事業に具体的区間を明示し、提言に盛り込むことを強く要望します。

- 3) これまで 15 回にわたって都・区市連絡協議会が開催されてきましたが、今後はよりきめ細かい、例えば区間別の連絡会、部会などの設置が必要と思われます。

市民と行政の役割分担をお互いに確認し協働する仕組みを是非確立するよう希望します。

私たちはこれまでシンポジウム「玉川上水と小金井桜」(平成 10 年)、自主講座「地域の遺産を守る—小金井桜」(平成 17 年)、小金井桜写真展(平成 11 年～)、小金井桜今昔写真展(平成 16 年～)名勝小金井桜落葉回収作戦(平成 15 年～)、名勝小金井桜樹勢調査(平成 14 年～)等を共同でまた単独で実施又は継続実施中です。

これらの活動によって私たちは微力ながら小金井及び近隣の市民への「名勝小金井桜」の普及・啓発活動の一端を担って来ました。

このような活動或いは更に実践的な活動は今後整備計画が進行するに従ってさらに必要性を増してくると思っています。このような活動を市民と行政の間で相互に関連しながら総合的に実施するための調整の場・協働の場の設置を提言に盛り込むことを強く要望します。

- 4) 小金井桜の後継樹としての名勝指定区間の補植用の苗木は別紙「小金井桜補植用後継樹の選定」に基づく名勝小金井桜に由緒のあるヤマザクラでなければならないと思います。

そのためにこの区間の周辺に専用の苗畑を設置し、所定の基準により選択された穂木を、収集して育苗するか、あるいは適当な相手先と提携して育苗を委託するなどの方策を提言に盛り込むことを強く要望します。

以上、『史跡玉川上水保全管理計画(平成 18 年 6 月 東京都水道局)』は、『名勝小金井(サクラ)現況報告書(平成 7 年 3 月 東京都教育委員会)』が刊行されて以来、私たちが待望してきたものです

この保全管理計画に示された基本方針、方向性に基づいて策定される「整備活用計画」が、一日も早く年次スケジュールに従って着々と実施されることを期待しています。

連絡先 〒184-0003

小金井市緑町 3-1-12

「名勝 小金井桜の会」事務局

小沼 廣和

小金井桜補植用後継樹の選定

名勝指定区間に植えつける桜樹の樹種は可能な限り名勝小金井桜に由緒のあるヤマザクラから選定したい。以下後継樹の候補について当会および関係者で調査した結果を列記する

1) 小金井桜の古木

名勝区間の小金井桜、とくに古木の内 #119、#166、#659、#1103 その他

2) 小金井桜との関係が記録上明らかなヤマザクラ

イ) 小金井市内に残る古木

嘉永2年の大補植の際に、この作業に参加した農家(某家)が記念のために自宅に植えたとの碑文付の古木が現存している。

市内にはその他「鈴木家のサクラ、国の天然記念物(枯死)」「鴨下家のサクラ」「笠森稲荷のサクラ」などの古木がある。

ロ) 小金井公園の桜

昭和25年当時東京との桜管理者塩谷格氏が東京都小金井苗圃において、三好学博士が分類命名された小金井桜の内残存していた9種について、各10本内外接木を行った。(鐘き、山路、武蔵、三吉野、茜桜、朝日、内裏、入相、貫井)

この苗が小金井公園内に植えつけられた。(塩谷格氏 武蔵野手帳)

ハ) 多磨霊園の桜

昭和5～6年から7～8年ごろ苗圃で接木した小金井山桜を霊園の表・裏参道両側に並木として植えた。(山田菊雄氏「小金井の桜」)

二) 神代植物公園の桜

園北側の調布市市道沿いの並木、昭和25年に名勝小金井桜の種子を拾い集め、育った実生苗の中から特別に美しい赤芽のものを選んで植えた。('神代植物公園' p150～151)

3) 小金井桜のルーツ、吉野山又は桜川に由来するヤマザクラ

イ) 吉野山の桜

町営の苗圃は台風により流失し以来再建されていない、補植苗は花の会から入手している。(吉野山ヴィジターセンター談)

小学生が山内の種子を集め校庭に植えて若木に育て、それを山に返している。

(鳥越皓之氏 花をたずねて吉野山)

ロ) 桜川の桜

桜川磯部稲村神社の境内に桜川匂、樺匂、初重桜、初見桜、大和桜、源氏桜、白雲桜、薄毛桜、青桜、青毛桜、梅鉢桜の11種の名花が保存されている

神社ではヤマザクラの実生苗を参詣者に頒布している

4) その他小金井桜との関係付けが可能と思われるヤマザクラ

北上市展勝地公園の小金井山桜

岩手県北上市の立花地区にある北上市展勝地公園は大正10年、当時東京帝国大学教授であった三好学博士と東京市公園課長井下清技師両氏の計画指導に基づいて完成されたという。

同展勝地の記録では大正10年、東京ヤマト種苗株式会社より小金井山桜 200本、同苗 1,000本 他を購入したとあり、この小金井山桜は展勝地公園内の陣が丘内に植えつけられたが現在も約80本が健在である。

以上

国指定史跡・名勝

玉川上水・小金井桜整備活用計画概要版



～名勝小金井(サクラ)の復活を目指して～



事業の目的

この絵葉書は、大正13年(1924)の名勝指定当時、小金井橋から下流を見た景観(風景)です。玉川上水堤の両岸にヤマザクラの並木が果てしなく延々と続き、多くの花見客がその美しさを愛でていました。江戸・東京近郊の名所として知られ、千本桜ともいわれた名勝小金井(サクラ)は、昭和40年(1965)の玉川上水の通水停止以後、下草管理の停滞や周辺道路の排ガスの影響、都市化等生育環境の悪化によってサクラの樹勢が著しく衰え、このままだと数年後には消滅してしまう危機的状況にあります。こうした現状をふまえ、東京都水道局は、平成21年8月に「史跡玉川上水整備活用計画」(都計画)を策定し、基本方針に名勝小金井(サクラ)の並木の保存を掲げ、今年度から具体的な整備・活用事業を実施します。

この計画を受け、小金井市は、地域が誇る文化的資産であるサクラ並木を再生し、再び名勝と呼ばれるに相応しい景観を復活させるため、東京都・関係自治体・市民団体・専門家など多くの人々と連携、協働して名勝景観の復活事業に取り組んでまいります。

平成22年3月 小金井市

モデル区間の整備

新小金井橋から関野橋までの640mの整備モデル区間については、できる限り大正13年（1924）の名勝指定当時の景観に近いヤマザクラ並木を復活し、あわせて周辺の緑道や展望地点等の修景整備を行います。

1 ヤマザクラ並木の復活

玉川上水の両岸の柵内に並木を再生します。このため、市は市民団体等と協働して補植ルールに基づきヤマザクラ苗木の提供を行います。

2 緑道の整備

フェンスの改修、スロープ・階段の整理、舗装の整備など名勝景観に配慮した修景を行います。



3 人道橋（眺望地点）の整備

かつて、「金橋桜花」・「小金井橋桜花」と呼ばれ、小金井橋が名所の中心地であったように、橋は名勝景観を構成する必要な要素です。モデル区間のほぼ中心にあたる位置に人に優しい人道橋を架設し、橋から並木の眺望を親しむための鑑賞スポットとします。



玉川上水・小金井桜整備活用計画概要版

～名勝小金井（サクラ）の復活を目指して～

発行 小金井市 編集 小金井市教育委員会 生涯学習課

平成22年3月

〒184-8504 東京都小金井市本町6-6-3

電話042-387-9879

（古紙を配合しています）

基本方針

関係機関及び市民団体と協働して名勝小金井のサクラ並木を再生・復活させ、次世代に継承するとともに、都計画で示された3つのテーマ

●テーマ1：玉川上水を見せる

●テーマ2：玉川上水への理解を深める

●テーマ3：より多くの人が安全・快適に利用し、親しめるようにする

を、地域の特性に合わせてより具体性のあるものにすることを基本方針とします。

取り組み

1 後継樹の育成

名勝小金井のサクラの樹種は、指定理由にあるように、若葉の色、花の色、形、大きさ、開花期等1本1本が異なるといった多様なヤマザクラの天然変種によって構成されることに特徴があります。このため、「都計画」の補植ルールに基づき、地元で計画的な苗木の育成や、歴史的系譜に基づく苗木の導入に取り組んでいきます。

(1) 小金井堤産の実生苗の育成

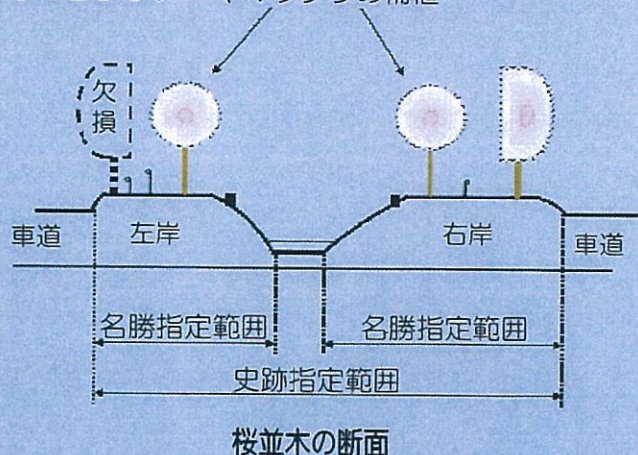
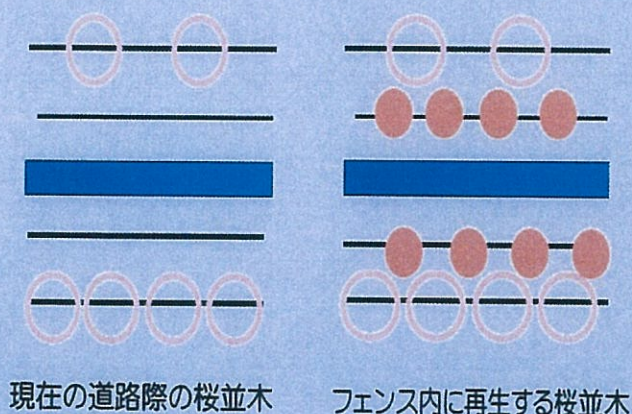
(2) 歴史的系譜とされる吉野(奈良県)、桜川(茨城県)、北上(岩手県)からの導入

2 並木の再生

東京都水道局が実施するサクラを被圧する高木の伐採の後、比較的生育環境が良好なフェンスの内側に適切な間隔(8~10m程度)で苗木を補植します。

このことにより、①生育に支障のある踏み圧を防ぐ、②雑木伐採後の空間に緑を補植する、③雑木の萌芽を抑制する等の効果が期待できます。

ヤマザクラの補植



対象区間と整備予定期間

史跡玉川上水の小金井市域にかかる約3kmの区間（上流茜屋橋から下流梶野橋付近まで）を整備の対象とし、当面は東京都の実施するモデル整備区間640m（新小金井橋から関野橋まで）を整備します。整備期間は「都計画」と整合性を図かり、平成22年度から平成31年度までの10年間とします。



3 緑道の整備

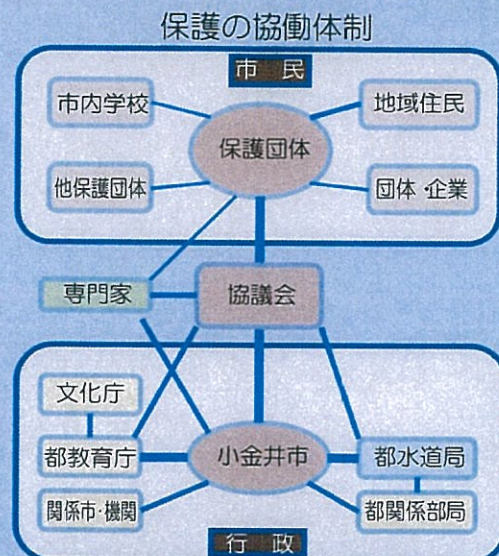
市が占有する緑道及び便益施設等を名勝景観に配慮したものに改修します。

- (1) 景観に配慮したフェンスの改修
- (2) 桜の根に配慮した舗装の整備
- (3) 桜樹の生育を阻害しているスロープ・階段の整理
- (4) 緩衝植栽の検討
- (5) ベンチ・照明のあり方の検討

4 その他の取組み（ソフト面）

史跡玉川上水・名勝小金井桜へ多くの人々が訪れ、理解を深め、親しんでいただくために次の取組みを行います。

- (1) 散策モデルルートの設定
 - ① 散策ルートの整備
 - ② 説明板、散策ルート案内板の設置
- (2) PR活動の強化
 - ① 市ホームページの拡充
 - ② パンフレット類の発行
 - ③ イベントの開催
- (3) 学校教育との連携
- (4) 市文化財センターの充実
- (5) 連携・協働体制の強化



名勝小金井(サクラ)再生・復活計画

玉川上水は平成15年8月に国の史跡に指定され、所有者の東京都水道局は平成21年8月に「史跡玉川上水整備活用計画」を策定しました。

市ではこの計画を受け、歴史的文化遺産である名勝小金井(サクラ)を再生・復活し、まちづくりに生かすための計画を策定しました。ここでは、その概要をお知らせします。

名勝小金井(サクラ)とは

江戸時代の武蔵野新田開発の時代に、小金井橋を中心とした玉川上水の両岸約6キロに植えられたヤマザクラの並木で、歌川広重が錦絵に描くなど、江戸近郊の花見の名所として有名になりました。

大正13年には、多種多様なヤマザクラの天然変種の一大集植地として他に類がないことから、国の名勝に指定されました。

昭和30年代までは、花見客で大いに賑わいましたが、玉川上水の通水停止後は、自然に雑木が繁茂し、周辺の都市化など生育環境の悪化により、名勝としての桜並木の景観が著しく衰えています。

計画年度と整備モデル区間

市では、都水道局・都教育庁・関係自治体、市民団体と互いに連携、協働して名勝景観の復活に取り組ん

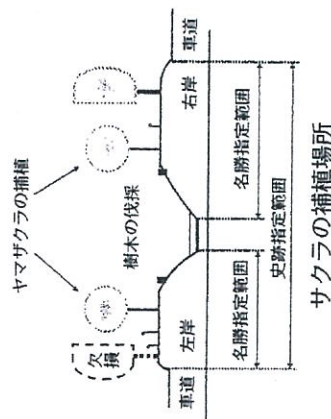
でいきます。

都水道局の計画年度は、今年から10年間で、名勝指定区間約6キロのうちモデル区間に設定された新小金井橋から関野橋までの0.8キロの整備を行います。今年度はその内の0.4キロが試験的に施行されます。

ヤマザクラを補植します

玉川上水の眺望やヤマザクラの生育環境を確保するため、都水道局がケヤキなど雑木の伐採や剪定作業を実施します。

その後、フェンスの内側に一列にヤマザクラの後継樹を補植します。補植する苗木は、小金井堤産のほか、歴史的系譜にある茨城県桜川、奈良県吉野、岩手県北上展勝地といった名勝から導入し、多種多様なヤマザクラを計画的に補植していきます。後継樹の育成は、市が市民団体と協力しながら確保に努めます。



緑道等や人道橋を整備します

市は、より多くの人が安

全・快適に利用し、親しめるようにするため、市が管理している玉川上水緑道のフェンス・歩道・スロープ等を名勝景観にふさわしいものに改良整備します。

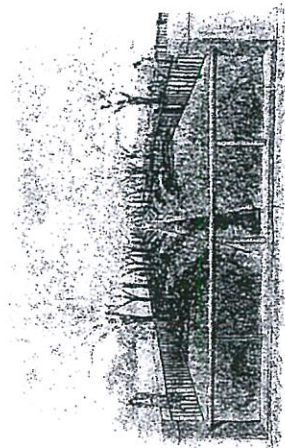
また、人道橋は、桜並木を眺望し、名勝景観を際立たせるため、また、周辺の文化施設をつなぐ散策ルートとして必要な施設として、モデル区間に、昭和初期の小金井橋を彷彿とさせるような人道橋を整備します。

その他の取り組み

市は、史跡玉川上水・名勝小金井(サクラ)への理解を深め、親しんでいただくため、散策ルートの整備、PR活動の強化、学校教育との連携、文化財センターの充実(関係資料の収集・展示)を図ります。

事業の円滑な実施のため、関係機関や市民団体との連携、協働体制を強化します。

問合せ先 生涯学習課文化財係 ☎(03)387-9879



人道橋より桜のトンネルをみる(イメージ)

「名勝小金井サクラ」のモデル区間整備について ～平成22年度から実施します～

東京都水道局は、「史跡玉川上水整備活用計画」（平成21年8月策定）に基づき、史跡玉川上水を適切に保存し、より多くの人々に親しまれる「水と緑の空間」として次世代へと継承するための取組みに着手します。

「名勝小金井サクラ」のモデル区間整備は、この計画に基づき、平成22年度から実施する事業です。

《モデル区間》

名勝指定区間（約6km）のうち、小金井公園正門付近の新小金井橋から関野橋まで（約640m）

《実施時期》

平成22年度から24年度までの3か年

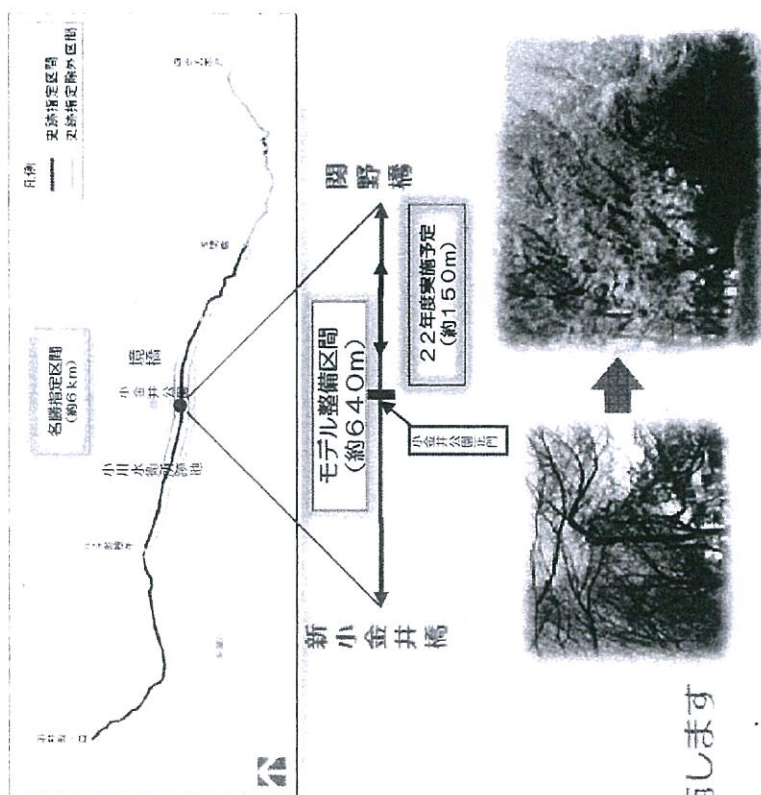
《実施内容》

- サクラ周辺の樹木の伐採・剪定
- 補植する場所の地元への提供
- 後継樹の補植・育成※

《22年度の実施予定区間》

小金井公園正門前の東側約150mの区間で先行的に実施します

※東京都教育庁、地元（小金井市等）により実施します



皆様のご理解とご協力をお願いいたします



東京都水道局

ホームページ <http://www.waterworks.metro.tokyo.jp/water/pp/tamagawa/index.html>

【お問い合わせ】

東京都水道局経理部
03-5320-6387



日本ボーイスカウト東京連盟 北多摩地区

小平第五団 公式ホームページ

このホームページは、ボーイスカウト日本連盟ホームページ掲載「ボーイスカウト関係のホームページ掲載」に基いて、田嶋康王（小平第五団指導員）Design: kscoun@nifty.ne.jp の責任のもとに制作しています。

6月5日(土)晴れ

■小平井市の玉川上水周辺～小金井公園

■名勝 小金井桜の会はこちら

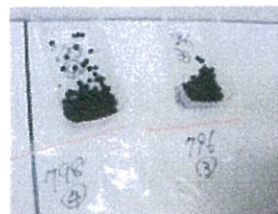
小平井市と名勝小金井桜の会の主催による『名勝小金井桜復活プロジェクト』に参加しました。小金井公園の南側、五日市街道に沿って流れる玉川上水流域の桜は、かつて明治以前から桜の名所として人々に親しまれてきました。そんな名勝、小金井桜も近年さまざまな原因で衰退してしまいました。その復活のために、五十年後、百年後の未来のために、小金井桜(ヤマザクラ)の種を拾って育て植樹しようという壮大なプロジェクトです。

当日は、そのプロジェクトの記念すべき第一歩ということで名勝小金井桜の会のみなさんと共に、小平井市のガールスカウトや私達小平5団のビーバー隊とカブ隊が参加、このプロジェクト取材するためにJCOM-TVの撮影スタッフもきていました。

みんなで拾った種は一時ムロの中で保存して、時期(来年2月)がきたら地元の植木屋さんの畑に蒔いて、苗木まで育ててもらい、その苗木をみんなの家に配り何年か育て少し大きくなったらまた回収して、玉川上水に植樹するというものです。

子どもたちにとっても、身近な小金井桜を通して、これから自然や環境、歴史、日本文化、地域etc...について考える小さなきっかけになればと思います。

未来に向けてみんなの夢をつないでゆくというすばらしいプロジェクトに参加することができました。



種洗い作業(写真提供:名勝小金井桜の会)



きれいに洗い終わったヤマザクラの種(写真提供:名勝小金井桜の会)



-44-



農園の方のお話を聞きました。

小金井桜種拾い 2010年6月5日



796

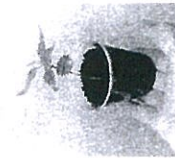


798

指定の木から、黒く熟した実を集めました。

よろしくお願
います!!

奇跡的に自生していた苗

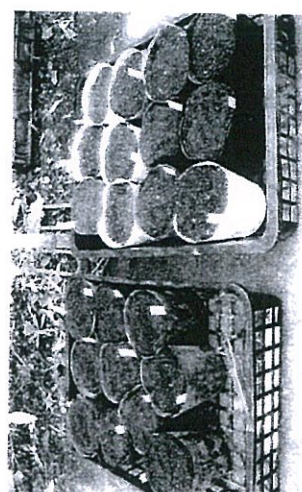
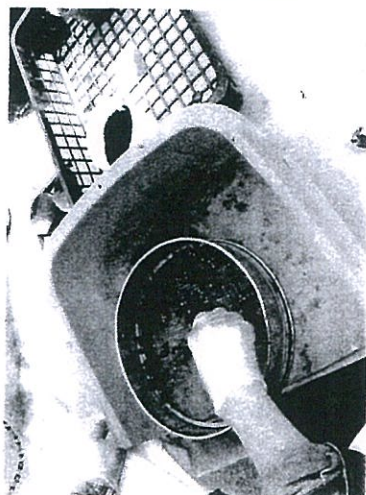


今後、拾った実から
苗を育てていきます。

小金井桜のさくらんぼ種洗い



22種を22ポットに蒔く



2010年6月7日



小金井桜の現状

歴史の中で育まれてきた、私たちの財産である小金井桜の並木が、樹木の老齢化や五日市街道の交通量の増加などにより、樹勢が衰えています。

このまま放置すれば、近い将来名勝小金井桜は失われてしまうでしょう。



小金井桜復活の10年計画

東京都と小金井市は、現在危機に瀕している名勝小金井桜を復活させるため、小平水衛所から境橋の6キロを再生させる10年計画をスタートさせました。ヤマザクラを被圧しているケヤキ等の剪定・伐採を行い、空いたスペースに吉野（奈良県）や桜川（茨城県）の系譜を引くヤマザクラを玉川上水の細内に植樹し、「名勝小金井桜」の美しいヤマザクラ並木を復活させる計画です。平成22年度は、小金井公園歩道橋から関野橋の間150mの雑木伐採を行い、新たにヤマザクラの苗木を植樹します。

整備モデル地区



名勝 小金井桜の会の活動

私たちは、復活計画の実現に向けて、行政や関係団体と協力し、将来植樹するための苗木を種から育てる活動などを進めています。また、観桜会・樹勢調査・学習会・写真展・桜まつり・お月見の集い・小金井市民まつり等への参加など、楽しく活動しています。会員随時募集中！ 気楽に入会して、一緒に楽しみませんか？

■事務局 小沼廣和 ☎Fax:042-301-5132 メール:kazu2@jcom.home.ne.jp
■ホームページ <http://koganei-sakura.web.infoseek.co.jp/>

国の名勝「小金井（サクラ）」は、江戸時代に玉川上水堤に植樹された小平水衛所から境橋まで6kmにおよぶヤマザクラの並木です。



名勝 小金井桜

歌川広重『小金井橋夕照』



サクラランボ拾い



樹勢調査



桜まつり



落葉回収



市民講座

名勝 小金井桜の会

歴史的文化遺産である小金井桜のヤマザクラ並木を次代に継承し、「小金井桜のザクラ復活」を目的に平成19年に発足しました。年間を通して様々な活動を行います。一緒に楽しみませんか？お問い合わせは裏面をごらんください。

玉川上水沿いに残る幻?の桜

多摩史再訪

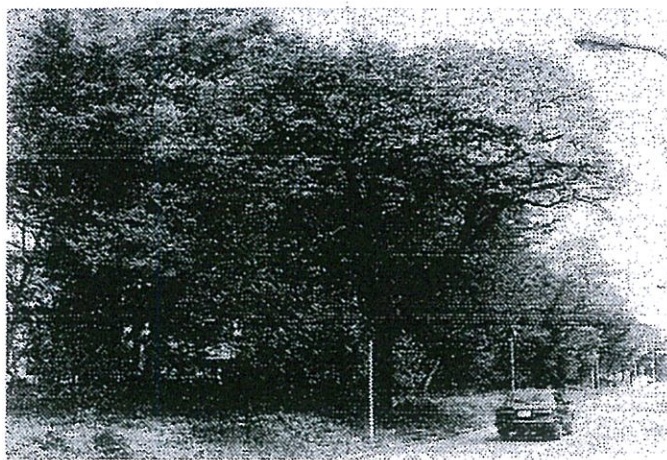
□66■



米谷開司朗さん

表皮が黒く、(うっすい)年(昭和三)に東京市(当時)が刊行した「小金井桜」に薄緑色の葉と白い花が広がる。小平、小金井市の玉川上水沿いの「小金井桜」の山桜の並木は、今月いっぱい満開の花を咲かせている。

※ ※ 小金井桜に関する著書が並び、桜の花と葉の構造を二冊残っている。一九八



現在の小金井桜

それぞれの学名や花びらの大きき、色合い、開花時期、植えられた場所なども念に記されている。

「当時の観光名所だった小金井桜の、いわば桜カタ」

小金井桜

大正期に変種確認 放置され識別困難

ログだったはず。一六五四年(承応三)、江戸の飲料水確保などを目的に玉川上水が開通。その

小平市学園西町の自然文



三好博士が命名した「富士見桜」(「小金井桜花図説」)

辺で新田開墾にあたった代官の川崎平右衛門が、奈良、茨城県から山桜の苗を取り寄せ、約八キロにわたって植えた。

小金井桜の並木は、歌川

広重の浮世絵版画にも取り上げられ、戦後間もなくまで観光名所として知られた。一九四四年(大正十三)には国の名勝に指定されて

新宿区の淀橋浄水場が廃止になり、東村山市に浄水場ができた。玉川上水の水を浄水場に送るため、小平市から下流の上水の水流量が激減した。

上水を管理する都庁内でも担当部署が何度も変わり、上水沿いは下草刈りもされなくなり、桜以外の木も生い茂り始めた。三好博

れでも、武蔵野を貫く緑のラインとしての景観は貴重だ。

日本造園学会会員でもある米谷さん、上水の自然環境や小金井桜の保存を訴え文化財としての上水の補修などに関する研究論文を発表している。

その米谷さんがどうしてやりたいことがあるのか。世代交代や枯死で失われたものもあるだろうが、三好博士が命名した桜を識別したい……

士の種類番号により桜に張り付けた番号札も、いつしか消失する。

小平に移り住んで間もな

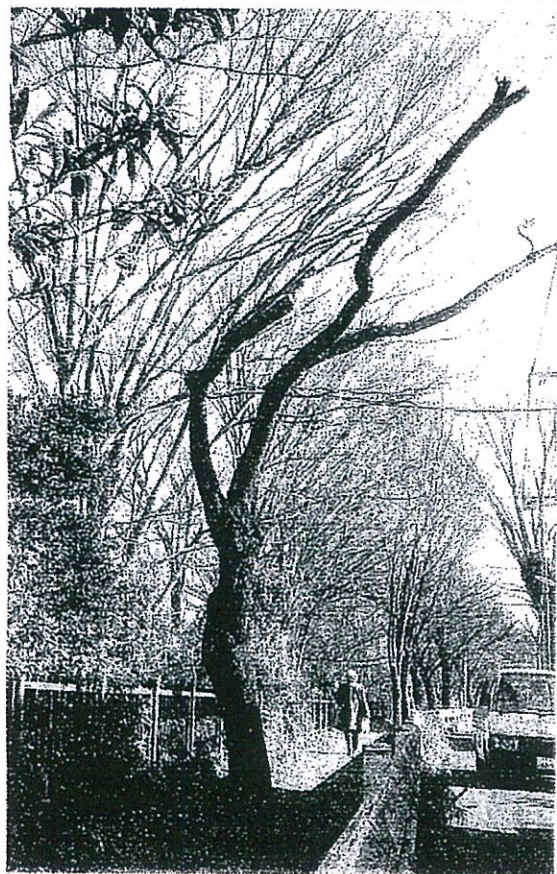
かった米谷さんが、小金井桜の危機を知ったのもこのころだ。市街化の進展で変化する自然に不安を抱くことも、玉川上水が放置されていくのに気がつき、調べていくうちに三好博士の図説に出会った。

※ ※ 小金井桜は今、後から生えてきたクマキやクヌギなどにかきかわり、かつての桜並木の面影を失っている。そ

その小金井桜に機械が訪れる。昭和四十年代前半、

小山 幸

サクラの名所 玉川上水堤 今やケヤキの名所?



●「枯死」が一時疑われた565番のヤマザクラ＝東京・武蔵野市で⑤玉川上水の桜並木（1880年代）、右岸の巨樹は富士見桜（既に伐採されている）＝日本カメラ博物館所蔵

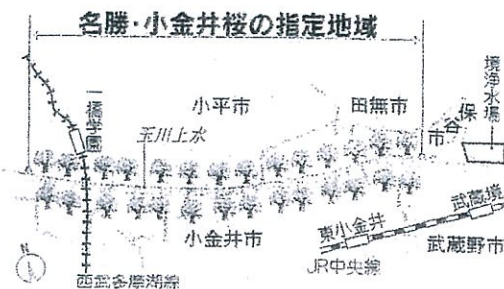


環境保全局の話では、今年の指定後に一部をモデル地域に定めて、ケヤキをせんに切り定まる。ケヤキを全部切りを倒さず、ササミの共伴者を目指す。同局の担当者も「これまでの縦割行政の中では保存も進まなかった」と話した。

地元で保存運動に取り組んできた「名勝小金井桜に親しむ会」代表世話人の石田精一さん（ふ）は「本来、都がしかるべく管理しなればいけなかった」と指摘する。「サクラがすくすく」と伸びて毎年きれいな花を咲かせる。そんな名勝に指定されたことを褒めたたい」と囁いて語った。

名勝返り咲くか
小金井桜

かつて、江戸近郊隨一のサウラの名所だった玉川上水堤の名勝・小金井桜を復活させる計画が東京都で進んでいる。約三百六十年前から続く桜並木が衰退した最大の原因は、縦割りの行政で手入れができなかったこと。この障害を都知事が管理の主役となる都自然保護条例の「歴史環境保全地域」に指定することで解決する。月内にも玉川上水を歴史環境保全地域に指定、サクラを育てるには大きく変わったケヤキなどの伐採に取り掛かる予定だ。



565番のヤマザクラは、黒んだボロボロの木肌を露わにしてゐる。試観野市校庭の新築インシム前に立つ。両手を空に突き出し、腰をぐねぐねと曲つた「ハ」の字形の黒いシルエエが、青い空と背景に浮かび上がった。

数年前の春まで、葉と同時に咲く花が住民を楽しませてきた。管理する都教育委員会は565番を「枯死」とみて伐採を検討したが、枯死していないことが分かった。枯れた枝を払った。

縦割り行政で管理四分

小金井桜は、小平市の小
川水衛所跡から保谷市の境
まで、五川上水の両岸約
雲の学芸員は「ケヤキを植
りたててもできなかった」と
と振り返る。

ヤキせん定、共存へ

六に並ぶ。大正時代に國の「多勝」となり、当前は十四百六十八ヶ年あった。だがいまやケヤキ約三千四百本が茂り、サクラは約千二百本、雑木林といった趣だ。一九六五年の海溝浄水場の廃止で玉川上水に水流がなくなり、都水道局にまづ下車刈りが水路の斜面で行われなくなつてケヤキが巨木、急成長した。小金井校の保存を担当する都教は、病害虫の駆除、枯死し

たサクラの伐採、補植だ。根本的な対策のケヤキ伐採などは、手を付けられなかった。しかし、保全地域への指定によって、都知事を中心に環境保全高が、連絡パイプ役となり、手入れがよ

リスムーズに進んでいく。
環境保全局の話では、今

武蔵野残照

▶ 4 ◀

「立派な緑地帯が街の真ん中であつていいやまてい」。

玉川上水を散策する人たちがこんな会話をしている。

鈴木誠一さん(87)(小金井市多摩川の水を引いた玉川上



水。土の法面が残っている場所では、漂着したケヤキ、クヌギ、コナラなどの種が成長して根を張り、その樹冠が緑のトンネルのように上水を覆っている。

今でも見慣れた風景だが、一九六五年に小平監視所より下流の通水が止まり、下草刈りが行われななつて以降、わずかに三十年ほどの間に出来上がったものにすぎない。

歩道を歩くと上水に沿って

続く。先住のヤマザクラの並木は、奔放に枝を伸ばす。雑木の勢いに押されて元気がない。車の排ガスの影響もあるが、ケヤキに日光を遮られて、このままでは根が絶えてしまふ。鈴木さんは心配でならない。

＊ ＊

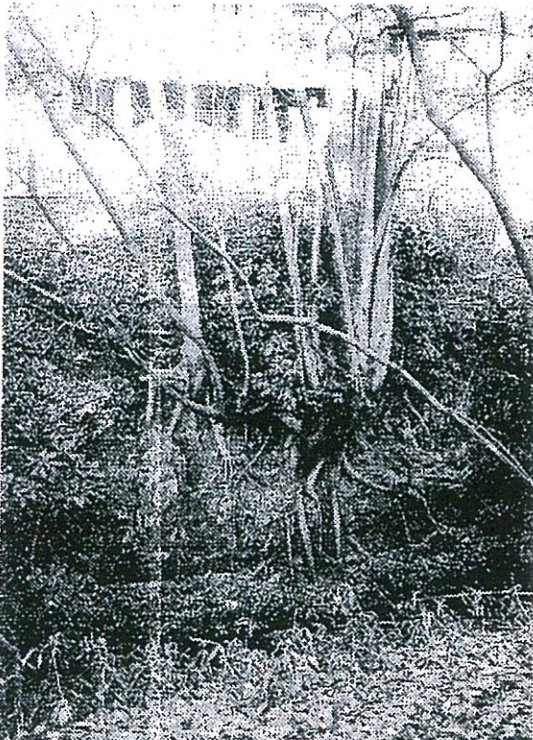
玉川上水の堤に最初に植えられたのはマツやスギ。ヤマザクラに植え替へられ、やがて上野・寛永寺などと並ぶ江戸の桜の名所となった。関東大震災の翌年に、旧小川水衛所(小平市)から境橋(武蔵野・保谷市)にいたる約六キロの国名勝に指定された。友人ととも、この桜並木を歩いた時の様子を、國木田独步は「武蔵野」につづっている。季節はずれの夏だった

が、「その日の散歩がどんなの様子をみえたか」という。花の季節には、上水沿いに副収入を得ようと、農家の出店が並んだ。花見客は車の上

に乗り、本来のヤマザクラも全盛の約六割に減っていた。風が吹くたび、ケヤキなど大木が小刻みに揺れ、根が露出した法面から、土の粒が「パパラ」と、水の流れへ落ちていく。桜の調査にも参加した自然文化研究家の米谷蘭司(みやのり)さん(小平市幸國町)は、上水のほとりであんな光景を多く目撃する。

上水の華彩りに影

雑木根付き、桜並木衰え



玉川上水の土の法面から伸びる雑木。木の重みで崩れ落ちる場所があちこちで見ることができる

に目を広げたり、縁石を持ち出し、思い思いに桜を愛しんだ。今じゃ車の窓から『あれが小金井桜だ』と指をさして通り過ぎる人だけが「さう……」

＊ ＊

青野山(奈良県)や関東各地から集めたとされる小金井の桜は花形や芽の色、開花時期など様々。かつて、六十八品種が生きていたらしい。都教委が三年前に行った調査では、名勝指定地域では約七十年前、千四百六十八本の桜があつたが、千二百二十

本が切られて、大きく育った木を切るには住民の感情的な反発もある。説得して、手を付けざるも早い方がいい」と米谷さんは話している。

「切るといふのも、また、芽が出て緑が茂るので殺すわけでもない。でも、雑木林は定期的に伐採して管理をするものだから」

江戸時代の土木遺構としての玉川上水と周辺の自然を、「歴史環境保全地域」に指定しよう、と、都は保全計画づくりを進めている。流域の住民から意見を聞いているが、「木を切るとはいふという人、ほしくない人、いろんな立場の人がいる」(環境保全局)といふ。

都民版

小金井桜

今から約70年前の元文2年(1737年)。武蔵野の新田開発が一段落した頃、幕府の命を受け、現在的小金井市などを流れる玉川上水の南岸に、奈良・吉野や茨城・桜川から取り寄せたヤマザクラを植えた。その起源が伝えられるのが「小金井桜」だ。約60年にわたって咲き誇る桜並木は歌川広重の浮世絵に登場。明治、大正天皇が御駕、花見列車も運行された。大正13年(1924年)、国の名勝に指定され、東京中に名をとどろかせた。

桜が散ると、玉川上水の水面上に花びらがびらりと散る。眺められ、「言葉や絵で表せない美しさだった。近くで生まれ育った造園業者、杉山利男(71)は懐かしむ。

数千人の花見客が訪れる日もあり、近隣農家を潤した。杉山の妻が、冬に作ったむしろを花見客に有料で貸し出し、生活費の一部に充てていたという。

ところが現在、桜を覆う形でケヤキなどが生い茂り、かつての面影は全くない。1965年に玉川上水の通水が停止され、桜並木が衰えたのだ。86年には平

名勝の並木 復活願う

都内版編集室
中央区銀座
6の17の1
読売新聞東京本社内
〒104-8243
電話(3217)1465
1466
FAX(3217)1468
tomin@yomiuri.com
ri.com
都民版広告
(5226)9925
購読申し込み
フリーダイヤル
0120-4343-81

水の通水が始まったため、ケヤキや下草の成長が促され、桜の生育を妨げている。桜の生育状況などを調査してきた「名勝小金井桜の会」(石田精二会長)によると、近年、毎年平均10本の桜が枯れたり、伐採されたりして、姿を消す。「小金井の桜」と題し、集められるようになったのは小金井公園の桜だ。「名勝小金井桜を小金井公園のソメイヨシノと誤解している市民も多」と石田(80)は憂える。

だが、名勝復活に向けた試みが来年2月に本格化する。都が今月、市の玉川上水にかかる関野橋から小金

井公園正門付近の間の150mの区間で、両岸に生えるケヤキなど大木の伐採を始めた。来年2月に植えるヤマザクラの苗木が育ちやすい環境を整え、「小金井桜」並木を復活させようという取り組みだ。

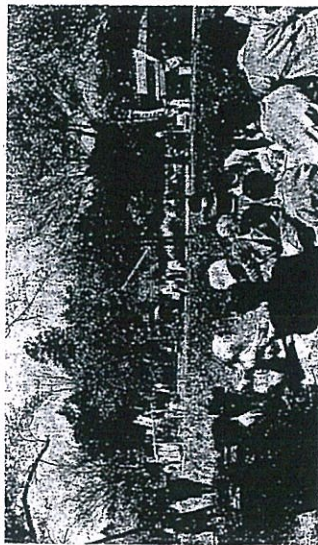
「今の桜の姿は、先相模に申し訳ない。復活は大賛成だよ」。5月、「名勝小金井桜の会」の石田や、同会事務局長の小沼広和(62)を前に杉山は語った。造園の専門的な観点から、ヤマザクラ並木の

再生に向けた協力を頼まれた杉山は、「苗木は育つて3割」「枯った桜の種は、きちんと保存しないと芽を出さない」など、どの課題を指摘した。杉山は農業委員を務めた約20年前から「桜を何とかしなくては」と訴えてきた。杉山は「小金井桜の再生に向けて動き出したことは、正直うれしかった」。

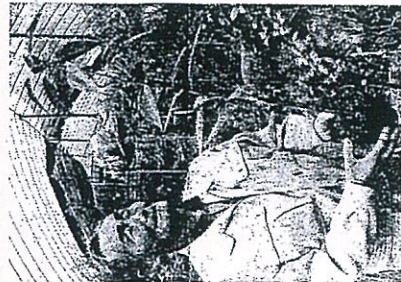
名勝小金井桜の会は、小金井市が主催した市民講座をきっかけに96年に誕生。再生に向けた協力を頼まれた杉山は、「苗木は育つて3割」「枯った桜の種は、きちんと保存しないと芽を出さない」など、どの課題を指摘した。



植樹、接ぎ木…市民の輪



【ヤマザクラ】日本に自生する桜で、国花。接ぎ木で増やす開花種のソメイヨシノがすべて同じ遺伝子を持ち、一斉に開花する。ローン桜で短冊などの対し、自生種で一本一本の遺伝子が異なるため、開花時期や花・葉の色彩が違ふ。



【玉川上水で接ぎ木した花見客(小金井公園)】1957年撮影の電車のビニールハウスで育った苗木を、見守る山崎さん(小金井市で)

講座を企画した当時は市職員だった小沼は「まだ生きていた小金井桜をよみがえらせ、歴史を受け継いでいくことで、町の色が出てくると思う」と話す。

講座修了後に呼びかける。と石田ら多くの受講生が応じた。以来、復活に向けた希望活動や桜の調査を続け、小金井桜の起源となった吉野や桜川、小金井桜が移植された埼玉県北上市などとも交流を深めてきた。

そのうちの一人、伊藤正義(70)は、木を接ぎ木したり、枝切りしたりする技術を学ぶ市民講座にも参加し、2002年、「小金井公園桜守の会」を設立。公園内で、様々な桜を接ぎ木して増やし、公園内の桜の手入れを手伝っている。

桜守の会が接ぎ木するなどして増やしてきたヤマザクラも、2月に玉川上水に移植される予定。「育ててきた桜を嫁に出す思い」と伊藤は感慨深げに話す。

杉山が敷地内のビニールハウスでは、今年6月に玉川上水で見つけた高さ約5mのヤマザクラの小さな芽が、1株ほどに成長。石田の自宅前にも、桜の苗木が数本ある。

「桜並木が再び人々を魅了するようになる日が来よう。桜守たちが、来年の植樹を心待ちにしている。(敬称略、佐々木大輔)



公園前歩道橋下南側。この辺り説明板設置場所に適切かバス停あり、人通り多し



園前歩道橋から北側の下流側を望む。



公園前歩道橋から南側の下流側を望む。



公園前歩道橋下から下流側を見る。赤丸印の辺りが説明板設置場所に適切(GoGoバス停あり、人通り多)



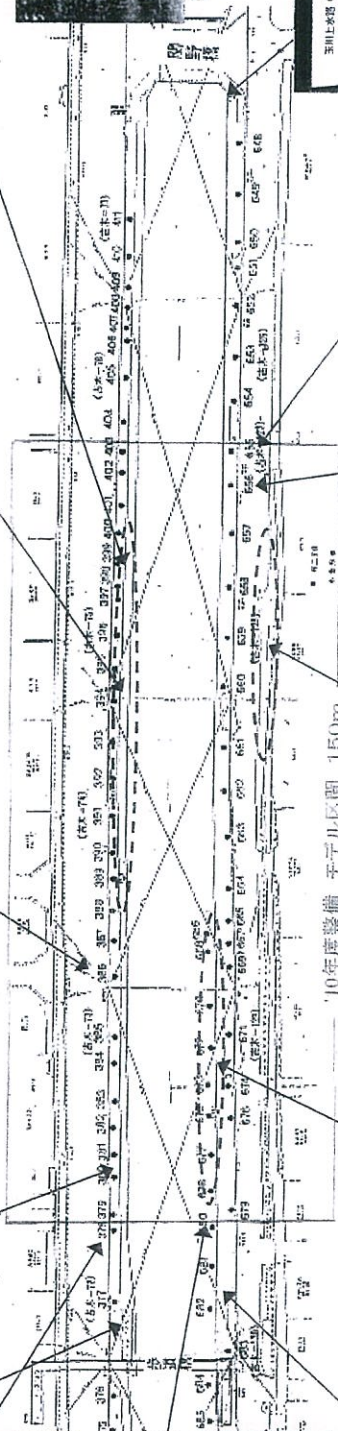
中には雑木の影響を感じさせない枝振りの桜樹も(No.386)



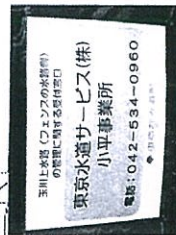
モデル区間北側にはフェンス内側に補植に充分なスペースがある

モデル区間西端(No.380、伊藤さんの地点)から下流側を見る

近隣住民の芸術でつい最近伐採された藤の切り株



開野橋下流で泳ぐ鴨(?)



水道局からの委託業者の看板



市、ローリーグラフが補植したフェンス内側の桜樹(No.666、668、670、677等ヒコバエ多し)

道路沿いに、市が植えた(?)植木が



モデル区間境界の標識杭

モデル区間東端(No.655)から上流側を見る

2010/07/03 小金井桜調査同行記

NPO 東京樹木医プロジェクト

樹木医 椎名豊勝

● 歴然、南北日照格差。

石田会長に同行し、第一ブロック(茜屋橋～喜平橋)を調査した。すべての小金井桜を網羅したわけではないが、区間の生育状況についてコメントした。

名勝指定当時は、水路を隔てて南も北もなく、日照はまんべんなく降り注いでいた。現在、兩岸のサクラの間にはケヤキ、コナラ、クヌギ等従来良好管理時には、小さいうちに刈り取られていた落葉樹がサクラの高さを超えて繁茂し、その結果、サクラの生育環境は大きく変わった。すなわち日照条件という面から見ると両側のサクラの真ん中に細長く、背の高い雑木という建物が小金井桜指定区域のすべてに建築されたと、たとえることができる。そして日のあたる南岸、あたらない北岸で日照環境は大きく異なり、生育の違いも歴然としている。

● ヤマザクラ片木(かたき)はケヤキなど雑木被圧が原因。

調査した多くのサクラは南岸では北半分、北岸では南半分が欠落している。植木屋用語でいう片木である。ケヤキなどによる被圧被害が原因である。大きく成長したサクラでさえ、後発だが、成長力に勝るケヤキ・コナラ・クヌギの枝葉がサクラとの競合に勝利して日照条件を獲得すると、後塵を拝したサクラの枝が枯れて落ち、片木という樹形になる、これは林における自然生態的原理である。

● 土壌はどうか、生活習慣病？

上水の土手際にもヤマザクラがあったと思われる。しかし、今は南・北の一番端側(車道側)に列になって存在しているものが多い。土手際との間には、歩道・緑道？と踏み固められ、砂利敷き、さらにはアスファルト舗装などが存在する。また、階段などの構造物も見受けられる。サクラの土壌がどうあるべきかが問われる。

● 雑木林の生態系着々と成立。

ケヤキ、クヌギ、コナラなどが水路中央部を占拠し、成長し、立派(?)な林として存在し、人が侵入しない条件のこの林はいわゆる雑木林の生態系が成立しつつある。大きく育った雑木とその林床には、ニリンソウなど武蔵野の雑木林を代表する下草、林辺にはセンニンソウなど本来の雑木林の植生が作り出されつつある。すなわち、一つの自然生態系が成立しつつあることは認識しなければならない。

● どうする実生木。

ケヤキなどの林ですでに遷移は始まっている。堀割内には、シュロ、ヤツデ、アオキなどの実生木と、それが作り出す暗い環境でシラカシなどが台頭している。やがて常緑の林へと変化するきざしだ。シラカシやスダジイの場合、ケヤキなどと違って完全にサクラと生育空間が競合するので、ますますサクラにとって厄介な存在となる。

● 主役山桜、耐えて躑躅類。

もちろん主役はヤマザクラだ。植えられた年代は定かではないが、調査区間で大きなツツジを散見した。大きさからいって館林のツツジには劣るものの相当の巨株で、玉川上水の自然資源として貴重な存在。林床の中にあって耐えてここまで大きくなったとの印象を深くした。

● いろいろなサクラの存在。

東京都教育員会の報告書を開いて見た。ヤマザクラのほか、カスミザクラ、ソメイヨシノ、オオシマザク

ラ系、オオヤマザクラなどがかなりの比率で存在し、わずかだが、シダレザクラ、マメザクラ、ミヤマザクラ、イヌザクラがある。はっきりしないが、往時は下草刈り等管理は水道局がヤマザクラの品種の管理は東京都の公園緑地部で行っていたとの情報もあり、一元的な品種管理がなされていた。その後同じ上水でありながら管理法規が異なったり、管理者が違ったり、ばらばらの管理がなされて今日の混乱が生じたものと思われる。

● 名勝小金井桜と国文化財玉川上水の土木遺構。

もちろん、小金井桜は国の名勝としての文化財、しかし、平成 15 年に玉川上水が土木遺構として国指定の文化財(史跡)となった。文化財保護法は指定時の状態を文化財として保護するという観点にたっている。だから掘割に大きく育ったケヤキなどを伐根すれば、いきおい掘割の現状を大きく変えることになりかねない。掘割を崩す伐根は難しいかもしれない。また東京都の歴史保全地区、景観基本軸などにも指定されておりこれらの調整も必要だ。

● 小金井桜と御上水桜。

第 1 ブロックを両側のサクラを市域別に見ると、小金井市分は約 1/4、小平市分は 3/4 と小平市がかなりの部分を占めている。さらに名勝区間全体では、西東京市、武蔵野市も加わり、ヤマザクラ復活には当然他市市民の協力欠かせないもの。小金井桜は全国的に流布している名称だが、小平では御上水桜などと呼ばれる場合もあり。国文化財としての名勝の復活はあたりまえのことだが、桜復活のために他市民参加のための合理的なロジックの形成が待たれる。

● 水道？道路？緑道？多様な管理者。

当然上水道施設として、さらに桜が立つ兩岸は東京都の公園緑地としての緑道、東京都都道の歩道として、小金井市の歩道および道路として、小平市の歩道および道路、緑道として、さらに武蔵野市の歩道および道路として、小金井桜を取巻く管理団体の違い、水道施設の管理法規、都市公園法、道路法、各市の条例など法規もさまざまである。名勝区間全体で統一的管理作業を行う場合これらが隘路となることはいなめない。沿線各市市民の力の結集と関係各団体との協働が重要である。

● 道路交通と文化財の関係。

側聞するところによれば、小金井桜は現在 4.5mの棒を持って、交通支障枝の切除を行っている聞いた。驚きである。しかし、このルーツは敗戦にあった「特に衰退の著しくなった原因は、昭和 29 年に傍らの五日市街道が日米行政協定の道路に指定され…米軍、田無警察署員立会いのもと、4mの竹竿により、車両通行上支障の枝をマークさせられた」と過去の記述を見ることができる。道路法上建築限界線の規定はあるものの、このような街路樹管理は都内では聞いたことがない、国の名勝文化財を守るため道路法に抵触しない小金井桜生育空間の確保が急務である。

● 山桜と雑木林の共存共栄は伝統的手法で。小金井桜・玉川上水と競合する文化財の関係、新

たな植物生態系が成立しつつある雑木林、生物多様性に優れた雑木林のつながり等々から、小金井桜を主体としながらも、両者が共存共栄する道を選ばざるを得ないのが実情である。小金井桜の植栽位置・土壌条件など生育条件を整え、桜を生かすために、雑木を萌芽更新など武蔵野の伝統的手法によって、抑制的樹形として管理し、新しい桜と雑木の共存関係を創造しなければならないと思う。

以上

小金井橋周辺の整備の経過・状況について

事業実施の経過・小金井橋関係年表

承徳 2年	玉川上水工事により橋を架設（当時の橋名は不明）
元文 2年	小金井橋中心とした堤防岸に桜を植樹
天保 6年	歌川伝重（初代）新橋で小金井橋の風景を描く
安政 3年	小金井橋が木橋から石橋に架替
明治 3年	玉川上水通船により小金井橋の上流河岸に船溜設置
明治 5年	通船廃止により船溜を埋戻す
明治 13年	小金井橋を国の名勝に指定
昭和 5年	煉瓦積アーチ橋に架替
昭和 28年	橋の改修工事（煉瓦積アーチを残す）
昭和 37年	小金井 3・4・13号が都市計画決定
昭和 38年頃	玉川上水堤に橋を設置
昭和 40年	玉川上水の通水停止
昭和 45年	小金井橋の両岸に人歩橋を設置
平成 12年 11月	小金井橋架替説明会（5回開催）
～平成 16年 2月	玉川上水を国の史跡に指定
平成 15年 8月	各団体から意見書を受領
平成 17年 1月	小金井橋架替委員会設置
平成 17年 10月	堤の試掘調査
平成 17年 12月	文化庁へ現状変更申請
平成 18年 3月	現状変更許可
平成 18年 5月	下掘工事及び上部工事
平成 18年 7月	小金井橋整備工事（上部仕上げ工事）
～平成 20年 3月	小金井橋整備工事（施設整備・復旧工事）予定
平成 20年 11月	～平成 21年 8月
平成 21年 8月	～平成 23年（予定）

現状変更申請の主な配慮事項

【構造関係】

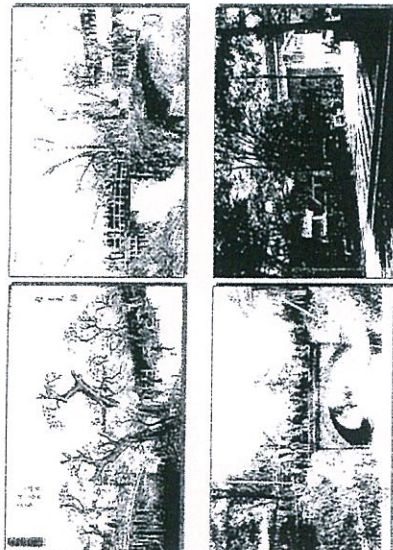
- 橋台の大きさを小さくした
 - ⇒ 構造物の小型化
- 水路法面の幅から2m離れた
- ⇒ 法面への影響を軽減
- 掘削時の山留材と橋台を一体化
- ⇒ 掘削範囲の縮小
- 歩行者・自転車利用への配慮
 - ⇒ 滑走スペースを確保
 - ⇒ 掘削防止柵を設置
- ※自転車滞留スペースに配慮
- 橋梁幅員の再検討
 - ⇒ 全体幅員を2m縮小（27.8m ⇒ 25.8m）

【維持管理関係】

- 維持管理性に配慮
 - ⇒ コンクリート桁
 - ⇒ ライフラインの設置方法
 - ⇒ 桁間に配慮

小金井橋架替の経過

承徳 2年	木橋（詳細不明）
安政 3年	石橋 W=約2.7m
昭和 5年	煉瓦アーチ橋 W=4.5m
昭和 28年	両側にコンクリート床版街を掘き足し W=8.4m
昭和 45年	上下流に歩道橋を架設 W=1.5m（歩道幅）
平成 21年	PC連続T橋 W=25.8m



小金井橋架替手続きの経過

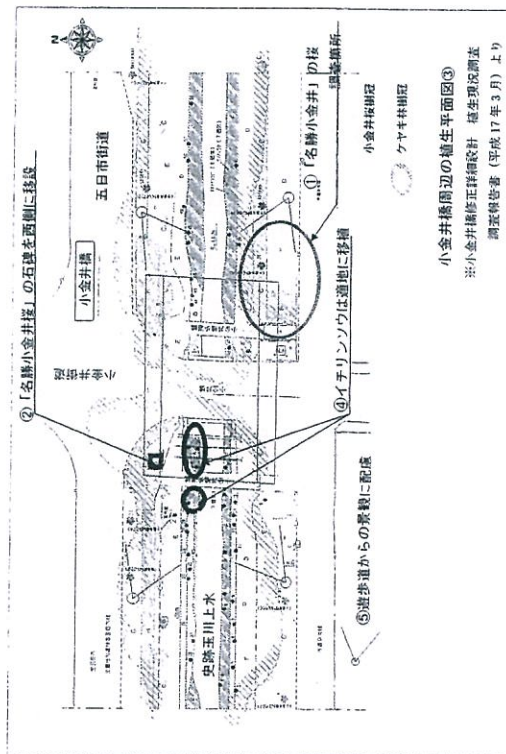
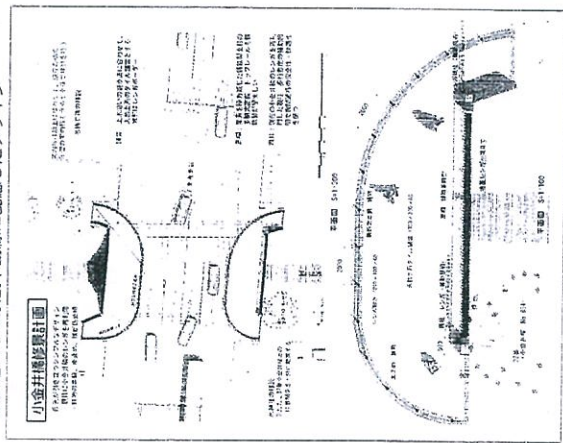
小金井橋の架替に当っては、計画及び設計段階において平成12年から説明会を行うとともに各団体からの意見を踏まえ検討してまいりましたが、平成15年の玉川上水の史跡指定を受け、「玉川上水保存管理計画」と整合を図りながらさらに検討を行いました

工事の実施段階では、現状変更申請の内容を踏まえつつ作業を進め、新たに生じた課題にも適切に対応し施工を行いました

平成12年 11月～平成16年 2月	小金井橋架替説明会開催（5回）
平成15年 8月	玉川上水史跡指定
平成17年 1月	各団体から意見書を受領
平成17年 9月～平成19年 3月	玉川上水保存管理計画策定に関する委員会（7回）
平成17年 10月～平成18年 1月	小金井橋架替委員会（2回）
平成17年 11月	遺構試掘調査
平成18年 3月	イチリンソウ生育調査
平成18年 5月	文化庁へ現状変更申請
平成18年 7月	現状変更許可
平成18年 5月～平成20年 3月	小金井橋整備工事（下部工事及び上部工事）
平成20年 11月	小金井橋整備工事（上部仕上げ工事）
～平成21年 8月	小金井橋整備工事（施設整備・復旧工事）予定
平成23年（予定）	※施設整備・復旧工事については現在調整中

【修景計画】

- 修景計画の基本的な考え方
- 『史跡・名勝 玉川上水の水辺環境との調和』
- ・「玉川上水」「名勝小金井」の桜と調和するデザイン
- ・遊歩道からの景観や動線に配慮したデザイン

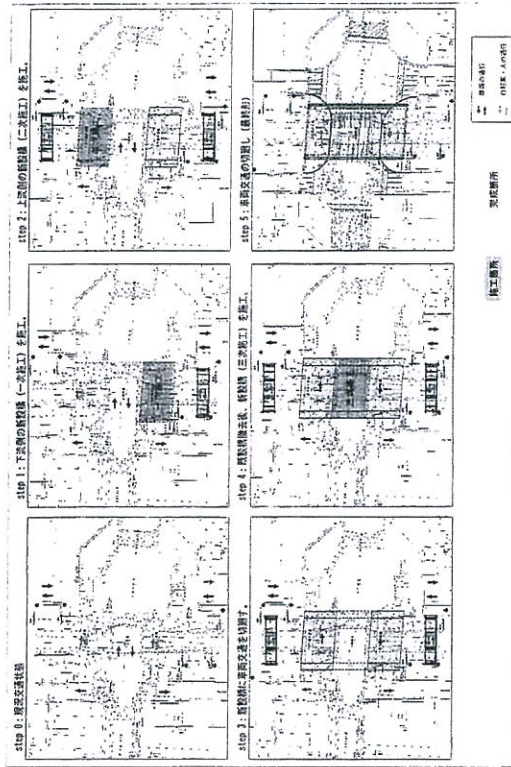


小金井橋周辺の植生平面図④
※小金井橋修正詳細設計 植生現況調査
調査報告書（平成17年3月）より

工事実施経過

【工事実施計画】

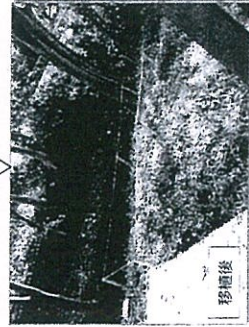
- 現況交通を確保しつつ架橋工事を実施
⇒ 橋梁を3分割にして施工（最終段階で連結）



案内施設の復旧など

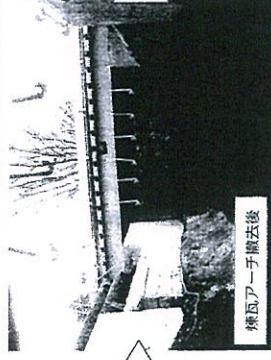
【イチリンソウの移植】

- 上流左岸のイチリンソウをさらに上流側へ移植

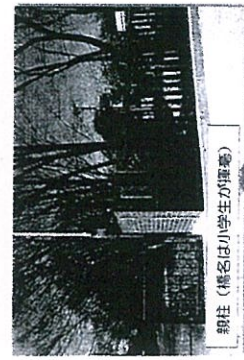


工事実施状況写真

【橋梁施工状況】

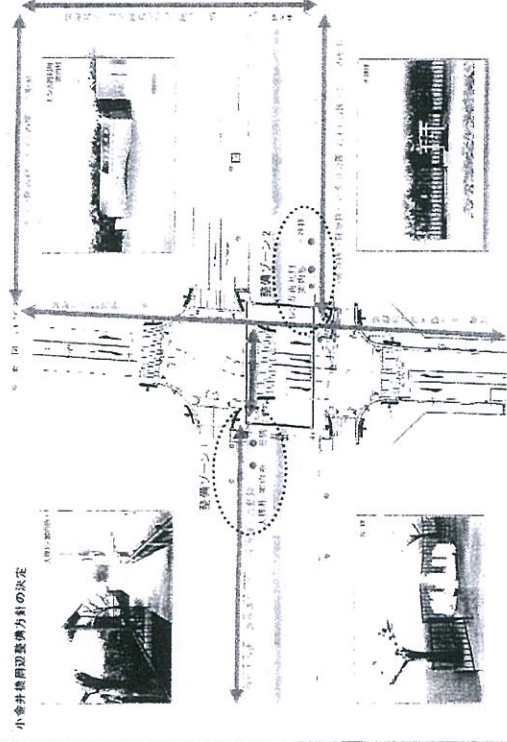


【整備状況】



【案内施設などの復旧】

- 大橋礼・水神社・石神の復旧、案内板の設置



LIP
RECORDS
LiP-10050

さくら・水・緑・こがね輝く街

小金井音頭



カラオケ・譜面付

定価¥1,200 (税抜価格¥1,145)

販売元・LIP MUSIC RECORDS

製造・©ボニーキャニオンエンタープライズ

写真提供・小金井市教育委員会

大樹映美

LIP
RECORDS

LiP-10050

小金井音頭 大樹映美

作詞：石本美由起 作曲：上原げんと 編曲：南雲 大介

一 花の小金井桜の名所

(キタシヨ)

昔しや荒野の武蔵野原も

今じゃ東京の奥座敷

ササ 小金井花どころ 花どころ

二 可愛いあの子か桜の花か

(キタシヨ)

風のうわさも年頃見頃

誰に見しようとの春化粧

ササ 小金井花どころ 花どころ

三 桜堤でおうたが縁で

(キタシヨ)

恋のドライブ ロマンス日和

若い胸にも花が咲く

ササ 小金井花どころ 花どころ

四 いとしいと咲かせておいて (キタシヨ)

散らす夜風は男の心

わたしやどなたに散るのやら

ササ 小金井花どころ 花どころ

五 花が咲く度毎年おいで (キタシヨ)

桜ばかりか私も花よ

富士も見とれるきりようよし

ササ 小金井花どころ 花どころ

編 集 発 行

名勝 小金井桜の会

会 長 石 田 精 一

事務局 小金井市緑町 3-1-12

連絡先 小 沼 廣 和

TEL 090-6507-4310

メール kazu2@jcom.home.ne.jp